

# 土佐国衙跡発掘調査報告書 第13集

—神木・国庁・中屋敷・神ノ木戸地区の調査—

2008.2

高知県南国市教育委員会

## 序

今から1千年余の昔、土佐の国司として赴任してきた紀貫之が都へ帰る道すがら記した『土佐日記』はあまりにも有名ですが、貫之が見た風景はどのようなものだったのでしょうか。貫之が勤めた土佐国の役所である国衙の正確な様子もいまだ明らかになっていません。

南国市教育委員会では重要遺跡確認調査として国庫補助を受け、平成11年度から土佐国衙跡の発掘調査を実施してまいりましたが、残念ながら正庁跡など国衙の中心となる建物等の確認には至りませんでした。また、調査可能な場所の関係もあり、継続的な調査は一旦終了せざるをえませんが、今後調査可能になり次第、再開を目指したいと思います。

本書は平成13・14・15年度に行われた土佐国衙跡発掘調査の成果をまとめたものです。今後広く利用され、文化財保護及び学術研究の一助になれば幸いです。

調査にあたりご指導を賜りました高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、また、発掘調査への深いご理解とご協力をいただいた国府史跡保存会、比江地区の方々、そして発掘・整理作業にご尽力いただいた作業員の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

平成20年2月

南国市教育委員会

教育長 大野吉彦

## 例 言

1. 本書は、南国市教育委員会が平成13・14・15年度に実施した土佐国衙跡発掘調査（南国市内重要遺跡確認調査）の報告書である。
2. 土佐国衙跡は、高知県南国市比江に所在する。
3. 各年度の調査は以下のとおりである。

平成13年度（第28次調査）：平成13年12月4日～平成13年12月30日・調査面積1,463㎡  
平成14年度（第29次調査）：平成14年10月1日～平成14年12月6日・調査面積1,278㎡  
〔第30次調査〕：平成15年1月15日～平成15年1月28日・調査面積 312㎡  
平成15年度（第31次調査）：平成15年11月26日～平成15年12月25日・調査面積1,600㎡
4. 発掘調査は、高知県教育委員会・高知県文化財埋蔵文化財センターのご協力を得て、南国市教育委員会が主体となって実施した。各年の調査体制は以下のとおりである。

平成13年度  
調査員 三谷民雄（南国市教育委員会 社会教育課 文化財スポーツ係 主事）  
総務担当 橋田和典（南国市教育委員会 社会教育課 文化財スポーツ係長）

平成14年度  
調査員 三谷民雄（南国市教育委員会 生涯学習課 文化財スポーツ係 主事）  
総務担当 田淵博之（南国市教育委員会 生涯学習課 文化財スポーツ係長）

平成15年度  
調査員 三谷民雄（南国市教育委員会 生涯学習課 文化財スポーツ係 主事）  
総務担当 田淵博之（南国市教育委員会 生涯学習課 文化財スポーツ係長）

平成19年度  
報告書作成 坂本裕一（南国市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係 指導主事）
5. 本書の執筆・編集は平成16年度まで三谷が行い、平成19年度に坂本が引き継いで行なった。
6. 遺構については、竪穴住居（ST）、土坑（SK）、掘立柱建物（SB）、溝（SD）、柱穴（P）で表示し、柱穴以外の遺構番号は『土佐国衙跡発掘調査報告書』第1～12集からの通し番号である。

本書の標高は海拔高であり、方位は座標北を用いた。
7. 現場作業においては、高知県教育委員会文化財課、（財）高知県文化財埋蔵文化財センター緒氏のご指導・ご教授を得た。整理作業においては、高知県文化財埋蔵文化財センター整理作業員の山中美代子氏、浅井真智子氏などのご協力を得た。記して深く謝意を表したい。
8. 発掘調査にあたっては、国府史跡保存会の皆様をはじめ、地元住民の方々のご理解・ご協力を得た。また、以下の現場作業員、整理作業員の皆様のご協力を得た。記して深く謝意を表したい。（敬称略）

〔現場作業員〕吉川 勉、窪田泰詔、西川初男、橋田芳雄、小松栄一、小松 好、浜田加代、久万奉子、島井博志、島井澄子、樫尾洋子  
〔重機オペレーター〕門田佳久  
〔整理作業員〕北村厚子、土居初子、樫尾洋子
9. 当遺跡出土遺物は南国市教育委員会が保管している。遺跡の略号は01-28TK、02-29TK、02-30TK、03-31TKである。

# 本文目次

第I章 これまでの経過と調査の方法	
1. これまでの調査の成果	1
2. 調査の契機	1
3. 調査の方法	1
第II章 周辺の地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	5
第III章 調査の成果	
1. 第28次調査(神木地区)	
(1) 概要	11
(2) 検出遺構	11
(3) 出土遺物	15
2. 第29次調査(国庁地区)	
(1) 概要	16
3. 第30次調査(中屋敷地区)	
(1) 概要	17
(2) 検出遺構	17
(3) 出土遺物	19
4. 第31次調査(神ノ木戸地区)	
(1) 概要	20
(2) 検出遺構	20
(3) 出土遺物	23
第IV章 総括	
1. 遺構	24
2. 遺物	24
3. まとめ	26

# 挿図目次

Fig.1 南国市位置図	1
Fig.2 土佐国府跡地名図	3
Fig.3 土佐国府跡第1~31次発掘調査区位置図	4
Fig.4 土佐国府跡の位置と周辺の遺跡	10
Fig.5 第28次調査区検出遺構全体図	13
Fig.6 第28次調査区出土遺物実測図(1)	14

Fig.7	第28次調査区出土遺物実測図(2)	15
Fig.8	第29次調査区トレンチ位置図	16
Fig.9	第30次調査区検出遺構全体図及びセクション図	18
Fig.10	第30次調査区出土遺物実測図	19
Fig.11	第31次調査区検出遺構全体図	21
Fig.12	第31次調査区出土遺物実測図	22

## 表 目 次

Tab.1	土佐国衙跡発掘調査一覧表	2
Tab.2	第28次～第31次調査区 遺構一覧表	23
Tab.3	土佐国府跡 竪穴住居跡一覧表	25
Tab.4	遺物観察表	27

## 写真図版目次

PL 1	第28次調査区調査前全景(北より) 第28次調査区遺構検出状況(北より)
PL 2	ST40検出状況 ST41検出状況
PL 3	ST42検出状況 ST44検出状況
PL 4	第29次調査区調査前全景(南より) 第29次調査区トレンチ1完掘状況
PL 5	第29次調査区トレンチ2完掘状況 第29次調査区トレンチ5完掘状況
PL 6	第30次調査区調査前全景(南より) 第30次調査区遺構検出状況(北より)
PL 7	第30次調査区完掘状況(北より) 第31次調査区調査前全景(北より)
PL 8	第31次調査区遺構検出状況(北より) 第31次調査区北トレンチビット検出状況
PL 9	出土遺物(1)
PL10	出土遺物(2)
PL11	出土遺物(3)
PL12	出土遺物(4)
PL13	出土遺物(5)

# 第I章 これまでの経過と調査の方法

## 1. これまでの調査の成果

土佐国衙跡の発掘調査は、市道や排水路の改良工事に伴う緊急調査や、昭和54年～平成2年までの重要遺跡確認調査など計25次にわたる調査が高知県教育委員会や南国市教育委員会によって行われている。その結果、国衙関連遺構とみられる掘立柱建物数棟が検出されたが、国庁など中枢施設の検出には至らなかった。そしてその候補地については、ビニールハウスが建ち並び、調査の実施が困難な比江地区中央部が最有力視された。

## 2. 調査の契機

平成2年以来長らく中断していた土佐国衙跡の発掘調査を再開した経緯は、以下のとおりである。平成11年は当地の史跡整備・維持管理などに積極的に活動を続けられてきた「国府史跡保存会」の創立40周年にあたる。史跡保存会からは記念行事の一環として「伝紀貫之邸跡」の隣接地に記念碑を建立する旨の要望が南国市に対してあった。市当局は協議の結果、隣接地の買い上げ、事前の発掘調査後の記念碑の建立と公園整備の計画などを決定した。南国市教育委員会ではこれを受けて、史跡整備のための重要遺跡確認調査として平成11年4月6日より調査を行った。

以来、毎年土佐国衙跡の調査を継続的に続け、本書は平成13～15年度の調査の成果をまとめたものである。

## 3. 調査の方法

これまでの土佐国衙跡発掘調査結果から、その遺構検出面は浅く、耕作土の直下であると思われる。平成13年度の第28次調査以降は、国衙関連遺構の検出をその第一目的とし、発掘調査は基本的に遺構の検出でとどめた。ただし遺構の時期や性格を把握するため、必要に応じて部分的にトレンチ等を設定し掘削を行った。



Fig.1 南国市位置図

Tab.1 土佐国街跡発掘調査一覧表

調査 次数	期 間	調査地区(小字)	調査の種類	検 出 遺 構			出 土 遺 物
				掘立柱建物跡	溝 跡	その他	
1	1977.2.1~ 1977.2.3	新田	緊急発掘調査 (市道改良工事)	-	-	柱穴	緑釉陶器
2	1979.1.27~ 1979.2.1	松ノ下	緊急発掘調査 (市道改良工事)	2 (中世)	-	柱穴	-
3	1979.2.13~ 1979.3.1	神木 [太郎三郎ヤシキ]	緊急発掘調査 (市道改良工事)	3 (平安2)	2	土器層1	黒色土器・瓦器・土師器・ 鉄釘
4	1979.4.20~ 1979.5.2	神ノ木戸	重要遺跡確認調査	-	3 (奈良末~平安中2)	土坑3	内面視・黒色土器・須恵器・ 土師器
5	1979.8.20~ 1979.9.12	宮ノ内	緊急発掘調査 (市道改良工事)	2 (平安末~鎌倉)	4	土坑2 (奈良末)	内面視・軟用銅・黒字模・ 墨書土器・緑釉陶器
6	1979.11.6~ 1979.12.11	内日吉(クケ)・ 同庁	重要遺跡確認調査	-	2 (平安前1)	柱穴 (中世)	内面視・青磁・白磁
7	1980.9.28~ 1980.10.4	神ノ木戸(クボノヤ シキ・飛騨・左ガ内)	緊急発掘調査 (市道改良工事)	-	1	土坑1	須恵器・青磁・常滑
8	1980.11.17~ 1980.12.15	内裏	重要遺跡確認調査	5 (平安3)	1	竪穴住居3 貯蔵穴2	須恵器(横受)・緑釉陶器
9	1981.9.10~ 1981.11.4	内日吉(府中)	重要遺跡確認調査	7	5	竪穴住居2 土坑7	内面視・緑釉陶器
10	1981.10.8~ 1981.10.19	神木・内日吉	緊急発掘調査 (市道改良工事)	-	1	柱穴	-
11	1982.9.17~ 1982.11.6	内日吉(府中) 神木(太郎三郎ヤシキ)	重要遺跡確認調査	11 (奈良6~平安2)	13 (奈良5)	竪穴住居2 土坑16	内面視・瓦器・青磁・ 白磁
12	1983.10.5~ 1983.11.7	内裏(堂ヶ内)	重要遺跡確認調査	6 (奈良~平安)	1 (6C~7C初)	竪穴住居5 土坑5	須恵器・土師器
13	1983.11.22~ 1983.12.10	内日吉(クケ)	重要遺跡確認調査	2 (奈良)	2 (中世)	井戸1 土坑8	須恵器・瓦器
14	1984.10.1~ 1984.11.1	内日吉(一ノ坪)	重要遺跡確認調査	5 (奈良~平安)	3	竪穴住居1 溝列5 (奈良~平安)	須恵器・土師器
15	1984.11.16~ 1984.11.22	鍛冶治	重要遺跡確認調査	1 (奈良~平安)	-	土坑1	須恵器・土師器
16	1984.11.30~ 1985.1.10	松ノ下	重要遺跡確認調査	6 (奈良~平安)	4	竪穴住居1 土坑4 溝列1	須恵器・土師器
17	1986.10.16~ 1986.11.29	松ノ下	重要遺跡確認調査	4 (奈良~平安)	4	竪穴住居1 土坑10(平安3)	刺書土器(須恵器)
18	1986.11.12~ 1986.12.19	南屋敷	重要遺跡確認調査	-	1 (奈良)	土坑15	須恵器・土師器
19	1986.11.20~ 1986.12.15	内日吉	緊急発掘調査 (排水路改修工事)	-	1 (平安~中世)	-	須恵器・土師器
20	1987.11.16~ 1987.12.18	松ノ下 (横マクラ)	重要遺跡確認調査	2 (奈良~平安)	3 (奈良~平安)	竪穴住居3 土坑3	須恵器・土師器
21	1987.12.1~ 1988.1.8	金屋	重要遺跡確認調査	5 (奈良~平安)	3 (奈良~平安)	竪穴住居3 土坑7 溝列6	須恵器・土師器・ 緑釉陶器
22	1988.10.12~ 1988.12.10	金屋	重要遺跡確認調査	3 (平安)	-	竪穴住居3 土坑22 溝跡1	須恵器・土師器・ 緑釉陶器・内面視
23	1989.11.1~ 1989.12.27	金屋 (セミヤシキ)	重要遺跡確認調査	9 (奈良~平安)	5 (平安)	竪穴住居3 土坑7 溝跡3	須恵器・土師器・ 緑釉陶器・内面視
24	1989.11.29~ 1989.12.27	神ノ木戸	重要遺跡確認調査	1 (平安)	1 (平安)	土坑5	須恵器・土師器・ 緑釉陶器・内面視
25	1990.10.8~ 1990.12.7	金屋 (セミヤシキ)	重要遺跡確認調査	8 (奈良~平安)	7 (平安~中世)	溝跡15 土坑12	須恵器・土師器・鉄刀子・ 常滑
26	1999.4.6~ 1999.8.13	内裏 (宮ノ前)	重要遺跡確認調査	8 (奈良~平安)	5 (奈良~平安)	竪穴住居7 土坑23	須恵器・土師器・瓦器・ 緑釉陶器
27	2000.10.4~ 2000.10.10	本屋敷 (ラコヤシキ)	重要遺跡確認調査	-	-	柱穴	須恵器・土師器
28	2001.12.4~ 2001.12.30	神木 (太郎三郎ヤシキ)	重要遺跡確認調査	-	4	竪穴住居7 土坑6	須恵器・土師器・瓦器・ 青磁・白磁・鉄製品・土師
29	2002.10.1~ 2002.12.6	同庁(神)	重要遺跡確認調査	-	-	-	-
30	2003.1.15~ 2003.1.28	中屋敷	重要遺跡確認調査	-	1	土坑9 (近世)	土師器・瓦質土器・興付・ 陶器
31	2003.11.26~ 2003.12.26	神ノ木戸 (クボノヤシキ)	重要遺跡確認調査	-	-	土坑2	須恵器・土師器・瓦質土器・ 瓦器・緑釉陶器・青磁・白磁





番号	調査年月	調査地区	番号	調査年月	調査地区	番号	調査年月	調査地区
1	S52. 2	新ヲ田	11	S57. 9	府中・太郎三郎ヤシキ	21	S62. 12	金屋
2	S54. 1	松ノ下	12	S58. 10	堂ヶ内	22	S63. 11	金屋
3	S54. 2	太郎三郎ヤシキ	13	S58. 11	クゲ	23	H 1. 11	金屋
4	S54. 4	神ノ木戸	14	S59. 10	一ノ坪	24	H 1. 12	神ノ木戸
5	S54. 8	宮ノ西	15	S59. 11	鐵冶給	25	H 2. 10	金屋
6	S54. 11	クゲ・国庁	16	S59. 11	松ノ下	26	H11. 4	内裏
7	S55. 9	クボノヤシキ・養老・主が内	17	S61. 10	松ノ下	27	H12. 10	本屋敷
8	S55. 11	内裏	18	S61. 11	南屋敷	28	H13. 12	神ノ木(太郎三郎ヤシキ)
9	S56. 9	府中	19	S61. 11	宮ノ西	29	H14. 11	国庁
10	S56. 10	神ノ木・内日吉	20	S62. 11	松ノ下(横マクラ)	30	H15. 1	中屋敷
						31	H15. 11	神ノ木戸

Fig. 3 上佐国衙跡第1次～31次発掘調査区位置図

## 第Ⅱ章 周辺の地理的・歴史的環境

### 1. 地理的環境

土佐国衙跡の所在する南国市は、北緯33度34分、東経133度38分に位置し、東西約12km、南北約23km、面積125.35㎢を測る。東西に長い弓状の海岸線を有する高知県のほぼ中央部にあたり、高知市の東隣、人口は約5万人を有する。主な産業は農業であり、かつては米の二期作の中心地であった。国の減反政策もあって今ではその姿を消したが、7月の中旬には刈り入れを始める早場米の産地として知られている。海岸部では施設園芸が盛んなほか、十市のヤマモモ、白木谷のタケノコなどの特産品も有名である。近年、高知空港の拡張、高速道路の延伸、阿佐線の整備、高知新港の開港など高知県の物流拠点都市としての役割のほか、高知市のベットタウンとしても発展してきている。

市域の北半分は四国山地より連なる山地で占められる。その大部分は古生代ペルム紀の上八川層と白木谷層によって形成される。市域の北境界線付近では、上八川層の標高は約800mに達するが、南下するに従って次第に高度を下げ、白木谷層では標高300～400mとなり、やがて標高150m前後の丘陵となって、ついには平野に没してゆく<sup>①)</sup>。

市域の南半分を占める平野部は、物部川や国分川・舟入川の堆積作用により形成された扇状地であるが、高知平野の東部を占め、長岡郡と香美郡にまたがることから香長平野とも呼ばれている。香長平野は、舟入川を境に北側を古期扇状地、南側を新期扇状地に二分できる。古期扇状地は洪積世の最終氷期に形成された礫層堆積物でおおわれており、長岡台地と呼ばれている。土佐国衙跡や土佐国分寺跡、比江庵寺跡などは長岡台地上に立地している。一方、新期扇状地は物部川の堆積作用による沖積平野であり、香長平野の大部分を占める。ここでは自然堤防がよく発達し、その上には南四国における弥生時代の拠点集落である田村遺跡群をはじめ、弥生時代の集落跡が多数分布している。

### 2. 歴史的環境

南国市は洪積平野と沖積平野を有し、古くから人々の生活に適した地であった。その営みの痕跡である遺跡の数は280余りにのぼる。これは高知県の遺跡総数の約1割を占め、県下で最も遺跡の分布が集中する地域である。平野部を中心に旧石器時代以降の各時代の遺跡の存在が知られており、それぞれの時代について概観する。

#### ①旧石器時代

高知県の旧石器時代については、「旧石器の空白地帯」と称されるほどその様相はほとんど判明していなかった。近年の調査によって高知県西部では宿毛市池ノ上遺跡、大月町ナシケ森遺跡など徐々に遺跡数が増加しているものの、高知平野周辺では南国市との境である高知市介良の高間原古墳群1号墳の石室流入土中より出土した1点の細石器<sup>②)</sup>が知られるのみであった。

このような状況下にあつて奥谷南遺跡（南国市岡豊町）の発見は画期的なものであった。四国横断自動車道の建設に伴う発掘調査が平成6～8年にかけて行われたが、岩陰より縄石刃400点、細石核150点、ナイフ形石器50点などが出土した。AT上層にナイフ形石器の2枚の文化層があり、

旧石器時代終末の細石器文化期の遺物が集中し、層中から植物食利用を示す叩石が共伴することが明らかになった<sup>(60)</sup>。

## ②縄文時代

縄文時代の遺跡は県西部の四万十川流域に比べて少なく、数ヶ所が確認されているにすぎない。奥谷南遺跡では草創期～中期の土器、中期末の堅果類の貯蔵穴が出土した<sup>(61)</sup>。奥谷南遺跡の南麓である栄エ田遺跡（南国市岡豊町）からは後期初頭～晩期終末の土器と共に30点程の磨製石斧が出土した<sup>(62)</sup>。これらの地域は、丘陵部が平野部に接する地に立地しており、狩猟・採集に適した地域であった。

南の平野部では、田村遺跡群（南国市田村）の第1期調査（1980～1983年）で後期の彦崎KI式土器が<sup>(63)</sup>、第2期調査（1997～2000年）で鎌崎式土器が出土し<sup>(64)</sup>、九州との関連が窺える。

高知平野における縄文時代の資料は徐々に増加しているものの、遺構はほとんど検出されておらず、今後の資料の追加が望まれる。

## ③弥生時代

弥生時代になると遺跡数とその規模は、急激に発展する。稲作に適した広大な沖積平野を有することから、平野部のほぼ全域に遺跡が展開している。

なかでも田村遺跡群は、その規模において群を抜いており、高知平野における拠点の母村集落と考えられる。第1期調査では前期初頭の集落跡と小区画水田跡、中期末から後期前半の集落跡が出土し、検出された竪穴住居跡は60棟、掘立柱建物跡も14棟にのぼる<sup>(65)</sup>。第2期調査では前期の環濠集落と前期末～中期前半の集落、中期後半～後期中葉の集落が移動を伴って変遷している様子が確認された<sup>(66)</sup>。検出された竪穴住居跡は453棟、掘立柱建物跡は198棟にのぼる。

田村遺跡群周辺の地域や中小河川流域では、前期後半～末葉にかけて小規模ながら遺跡が散見されるようになる。すなわち、大篠小学校校庭遺跡（南国市大篠）<sup>(67)</sup>、栄エ田遺跡、岩村遺跡（南国市福船）<sup>(68)</sup>や香南市の香我美町十万遺跡<sup>(69)</sup>、香我美町拝原遺跡<sup>(70)</sup>などである。

中期になると遺跡数は一転して激減し、特に中期前半の遺構は高知平野ではほとんど見られなくなる。香南市香我美町下分遠崎遺跡<sup>(71)</sup>や田村遺跡群<sup>(72)</sup>で土坑や竪穴住居が少数確認されているのみである。中期後半になると、平野部周辺の独立丘陵上に高地性集落が点在するようになる。高知市朝倉城山遺跡<sup>(73)</sup>、いの町パーガ森北斜面遺跡<sup>(74)</sup>、香南市野市町本村遺跡<sup>(75)</sup>などが挙げられる。

中期後半～後期中葉にピークを迎えた田村遺跡群を拠点とする一方、周辺部の中小集落は後期中葉から終末にかけて成立し、高知平野一帯に爆発的に展開していく。すなわち、東崎遺跡（南国市東崎）、岩村遺跡、小籠遺跡（南国市岡豊町）<sup>(76)</sup>や香南市野市町下ノ坪遺跡<sup>(77)</sup>、香我美町拝原遺跡などである。

## ④古墳時代

南国市岡豊町・久礼田・植田の平野と接する丘陵部は高知県最大の後期古墳の密集地である。なかでも小蓮古墳は県下最大の横穴式石室をもつ円墳であり、香長平野北部を中心とする有力豪族の墳墓と考えられ、22基の古墳からなる県下最大の群集墳である舟岩古墳群もこの地域に築造されている。従来、高知平野における前期古墳はその存在が全く知られてなかったが、平成6年の四国横

断自動車道に伴う長畝古墳群（南国市岡豊町）の調査で、同一丘陵上から4世紀前半・5世紀後半・6世紀前半の古墳（長畝2～4号墳）が確認された<sup>(21)</sup>。

集落は弥生時代後期終末から引き続き営まれる古墳時代初頭の集落は香長平野で数多く調査されている。古墳時代中期以降の調査例は少ないが、土佐国衙跡（南国市比江）<sup>(22)</sup>ではこれまでの調査で30棟の竪穴住居跡が出土している。

#### ⑤ 古 代

古代の律令制度のもとでの土佐国を伝える遺跡として、比江廃寺跡や土佐国衙跡、土佐国分寺跡が所在しており、古代土佐の政治・文化の中心地であったことを示している。

比江廃寺跡（南国市比江）は白鳳時代の寺院跡であり、現存している塔心礎は原位置を保っていることが発掘調査により確認された<sup>(23)</sup>。

土佐国衙跡では、昭和54年から11次にわたる確認調査が行われ、官衙を構成すると考えられる掘立柱建物群などが検出されているが、政庁などの国衙中枢の遺構は確認できていない<sup>(24)</sup>。土佐国衙跡の北方1kmに位置する白猪田遺跡（南国市久礼田）では地鎮祭の跡や緑釉輪花皿が出土し、「国府集落」としての性格づけがなされている<sup>(25)</sup>。

土佐国分寺跡（南国市国分）では東側に寺域を区画するとみられる土塁が現存している。現状変更に伴う調査および伽藍配置確認のための調査が行われ、礎石建物跡、掘立柱建物跡などが検出されている<sup>(26)</sup>。

また、香南市野市町下ノ坪遺跡では庇を有する大型の掘立柱建物跡から四仙騎獣八棱鏡が出土し、他の掘立柱建物跡からも緑釉単彩陶器が出土するなど官衙関連の遺跡として注目される<sup>(27)</sup>。

#### ⑥ 中 世

中世になると遺跡数も増加し、分布も平野部の城館跡や山麓部の山城跡などほぼ全域にわたる。現在確認されている南国市内の中世城館跡は47ヶ所にのぼる<sup>(28)</sup>。これらに伴い生活域も拡散し、現在我々が目にするような景観の基礎がほぼ形成された。

田村遺跡群では溝に囲まれた屋敷跡が31ヶ所検出されており、南北朝期に機能したもの、守護代細川氏の入部後に機能したもの、長宗我部氏の台頭期に機能したものの3時期に区分することができる<sup>(29)</sup>。

田村城跡は14～15世紀の細川氏の居館であり、城郭は3重の濠で囲まれた複合城郭である。郭内には区画溝や掘立柱建物跡が存在しており、外濠の幅は4～5m、深さ3.5mを測り、この中からは土師質土器や護符が出土している<sup>(30)</sup>。

岩村土居城跡（南国市福船）では城を囲む2重の堀が発掘された。この堀は出土遺物から14～15世紀に機能していたと考えられる<sup>(31)</sup>。

長宗我部氏の居城であった岡豊城は詰、二ノ段、三ノ段などから礎石建物跡が検出され、史跡公園として整備されている<sup>(32)</sup>。

#### ⑦ 近世以降

山内氏の土佐入国による高知城築城以降、土佐の中心地は高知市域に移った。長岡台地は当時未墾の荒地であったが、藩政初期の新田開発の際、諸役・諸税御免として入植を奨励し、御免町が生

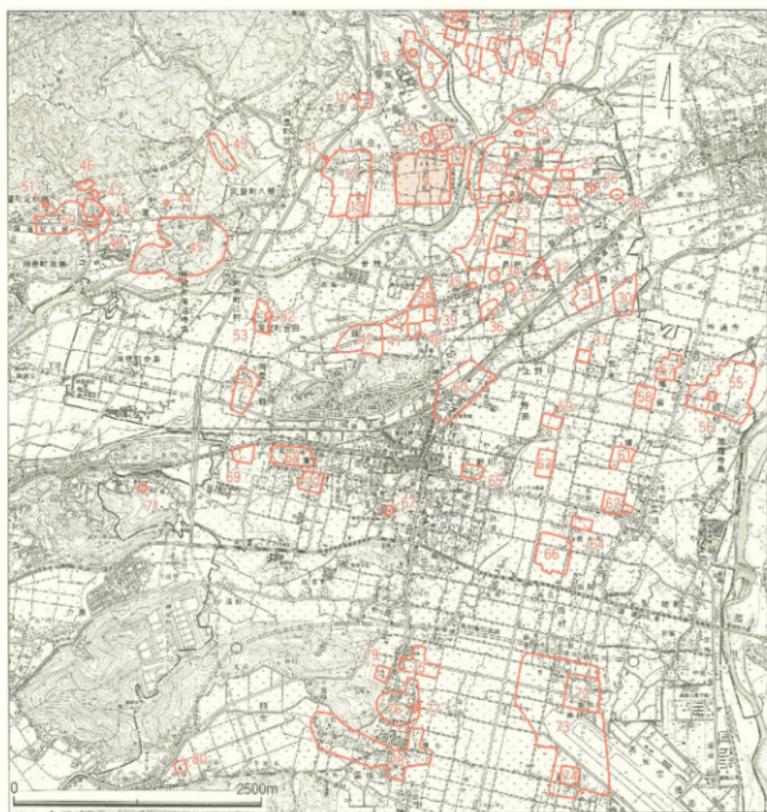
まれた。御免は今後は免と改められ、南国市の中心街となっている。近世における長岡台地の村落の様相については、陣山遺跡（南国市陣山）<sup>(30)</sup>、小籠遺跡<sup>(31)</sup>、岩村遺跡<sup>(32)</sup>、など近年発掘調査例は増えつつある。

近年、戦争遺跡を平和学習に積極的に活用していこうという動きが全国的に見られているなか、陣山遺跡では海軍の送信所跡地が発掘され、砲弾類が多数出土した<sup>(33)</sup>。また南国市前浜には、旧高知海軍航空隊所属の飛行機の格納庫であった掩体が今なお7基たたずんでおり、平成18年2月に南国市史跡として指定をされた。

#### 註

- (1) 島田豊寿「地理」『南国市史 上巻』南国市教育委員会 1979年
- (2) 岡本健児「原始」『南国市史 上巻』南国市教育委員会 1979年
- (3) 松村信博『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- (4) (3)に同じ
- (5) 松村信博『栄エ田遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995年
- (6) 『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第1分冊 高知県教育委員会 1986年
- (7) 『平成10年度 高知空港発掘調査 田村遺跡群 現地説明会資料』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- (8) 『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第1～15分冊 高知県教育委員会 1986年
- (9) 『田村遺跡群Ⅱ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 2004年
- (10) (2)に同じ
- (11) 三谷民雄『岩村遺跡群Ⅳ』南国市教育委員会 1999年
- (12) 出原恵三・高橋啓明・吉原連生『十万遺跡発掘調査報告書』香我美町教育委員会 1988年
- (13) 出原恵三『拝原遺跡』香我美町教育委員会 1993年
- (14) 高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡発掘調査報告書(1)』香我美町教育委員会 1989年
- (15) 『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第4分冊 高知県教育委員会 1986年
- (16) 岡本健児『高知県史 考古編』高知県 1968年
- (17) 伊藤 強『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会 1999年
- (18) 坂本憲昭『野市町本村遺跡調査報告書』野市町教育委員会 1993年
- (19) 出原恵三『弥生時代から中世における小籠遺跡の変遷』『小籠遺跡Ⅲ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (20) 出原恵三『下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落』『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年

- (21) 廣田佳久・池澤俊幸「長畝古墳群 高知自動車道（南国～伊野）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- (22) 「土佐国衙跡発掘調査報告書 第1～11集」高知県教育委員会・南国市教育委員会 1980～1991年
- (23) 『埋文こうち 第9号』高知県教育委員会 1996年
- (24) (22) に同じ
- (25) 三谷民雄『白猪田遺跡』南国市教育委員会 1997年
- (26) 山本哲也「土佐国分寺跡 第1～3次発掘調査概報」南国市教育委員会 1988～1991年
- (27) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋「下ノ坪遺跡Ⅱ」野市町教育委員会 1998年
- (28) 宅間一之「高知県南国市 中世城館跡」南国市教育委員会 1985年
- (29) 「高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群」第10分冊 高知県教育委員会 1986年
- (30) (28) に同じ
- (31) 三谷民雄「岩村遺跡群Ⅲ」南国市教育委員会 1998年
- (32) 森田尚宏・松田直則・岡本柱典「岡豊城跡」高知県教育委員会 1990年
- (33) 出原恵三・吉成承三・浜田恵子・佐竹 寛「陣山遺跡、陣山北三区遺跡」（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (34) 浜田恵子「小籠遺跡、近世村落の景観復原」『小籠遺跡Ⅲ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (35) (11) に同じ
- (36) 出原恵三「陣山海軍送信所と爆発事故」『陣山遺跡、陣山北三区遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年



順	名称	種別	時代	順	名称	種別	時代	順	名称	種別	時代	順	名称	種別	時代
1	桑ノ内遺跡	敷布地	古墳～平安	21	三浦遺跡	敷布地	弥生～近世	51	二ツ丸遺跡	城跡	弥生～近世	61	古武野遺跡	敷布地	古墳～平安
2	神ノ十河城跡	城跡	中世	22	津ノ上遺跡	古墳～中世		52	土崎遺跡	古墳	古墳	62	寺ノ前遺跡	古墳	弥生～中世
3	畑ノ田遺跡	敷布地	古墳～平安	23	堀巻遺跡	古墳～中世		53	岩谷野(1-3)遺跡	古墳	古墳	63	狭野遺跡	敷布地	弥生～平安
4	八ツマツ遺跡	中世		24	水通遺跡	弥生～平安		54	小澤古墳			64	高部遺跡	中世	
5	中ノ上層城跡	城跡	中世	25	三浦遺跡			55	岡田城跡	城跡	中世	65	門田遺跡	城跡	古墳～中世
6	渡輪遺跡	敷布地	平安～中世	26	青山遺跡	中世～平安	45	長谷野遺跡	城跡	弥生	66	藤原田遺跡	敷布地	弥生～平安	
7	白屋田遺跡	敷布地	古墳～平安	27	白山遺跡	古墳～平安	47	宮ノ原遺跡	古墳～平安	47	大野中院 院跡	院跡	弥生		
8	藤ノ寺 1-2号墳	古墳	古墳	28	東条一遺跡			48	千原聖教遺跡	院跡	中世	67	若宮ノ内遺跡	敷布地	弥生～中世
9	上層城遺跡	敷布地	古墳～平安	29	神明遺跡			49	小野古墳	城跡	中世	68	若宮古墳	古墳	中世
10	三浦野中ノ遺跡	古墳	古墳～中世	30	念仏遺跡	弥生～中世	59	宮ノ内遺跡	弥生～中世	59	彌文～元統	古墳	弥生～平安		
11	国分大塚古墳	古墳	古墳	31	野村丸遺跡	弥生～平安	51	岩谷野(2-4)遺跡	古墳	古墳	71	堀原山(1-3)遺跡	古墳	古墳	
12	国分寺遺跡	敷布地	古墳～近世	32	五反田遺跡	古墳～中世	52	春日土屋城跡	城跡	中世	72	田村城跡	城跡	中世	
13	土佐国分寺跡	寺院跡	古墳～中世	33	米船遺跡			53	春日遺跡	古墳	古墳～中世	73	田村城跡	城跡	縄文～近世
14	土佐国分寺跡	官署跡	弥生～中世	34	八反田遺跡	古墳～平安	54	小池遺跡	弥生～平安	54	千原城跡	城跡	中世		
15	民家遺跡	古墳	近世	35	中尾遺跡			55	岩村遺跡	敷布地	中世	75	岡の上層城跡	敷布地	弥生～中世
16	北江山城跡	城跡	中世	36	米船の東遺跡			56	岩村上層城跡	城跡	中世	76	中尾遺跡	中世	
17	北江山城跡	寺院跡	古墳～中世	37	飯島の内遺跡	彌文～中世	57	飯沼遺跡	敷布地	古墳～中世	77	片山寺跡城跡	城跡	中世	
18	三森城跡	城跡	中世	38	飯島の外遺跡	弥生～近世	58	芝田遺跡			78	長改田遺跡	敷布地	弥生～中世	
19	西神塚遺跡	敷布地	古墳	39	九反田南遺跡	平安～中世	59	ムロノ内遺跡			79	西ノ芝遺跡	敷布地	弥生～中世	
20	浦ノ上遺跡	敷布地	弥生～平安	40	丸石遺跡	古墳～近世	60	東郷遺跡	敷布地	弥生～中世	80	下田上層城跡	城跡	中世	

Fig. 4 土佐国府跡の位置と周辺の遺跡

## 第Ⅲ章 調査の成果

### 1. 第28次調査（神木地区）

#### （1）概要

第28次調査は平成13年12月4日～平成13年12月30日まで行った。調査地は南国市比江字神木で、土佐国府跡推定域中央部にあたる。調査区は昭和57年度に行われた第11次調査区の北側に接し、標高は16.0m前後を測る。調査面積は1,463㎡である。

遺構検出面は浅く、耕作土直下の褐灰色粘質土を掘り込んで形成している。検出できた主な遺構は、竪穴住居7棟、中世の溝4条などである。

#### （2）検出遺構（Fig.5）

##### ①竪穴住居

##### ST38

調査区東端に位置する。方形プランを呈し、検出部分の一辺は約4mを測るが、大部分は調査区外のため全体の規模は不明である。検出部分から推定される長軸方向はN-35°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。

##### ST39

調査区東端に位置する。方形プランを呈し、検出部分の一辺は約2.1mを測るが、大部分は調査区外のため全体の規模、長軸方向ともに不明である。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。

##### ST40

調査区東側に位置する。方形プランを呈し、規模は長辺約5.8m、短辺約5.1mを測る。長軸方向はN-20°-Eである。西側の一部をSD71に切られる。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。検出プラン西側の埋土中には焼土が集中する部分があり、カマドの位置を推定させる。

##### ST41

調査区北側に位置する。方形プランを呈し、規模は一辺約5.4mを測る。長軸方向はN-29°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。検出プラン西側の埋土中には焼土が集中する部分があり、カマドの位置を推定させる。

##### ST42

調査区北端に位置する。方形プランを呈し、検出部分の一辺は約4.2mを測るが、北半分は調査区外のため全体の規模は不明である。検出部分から推定される長軸方向はN-6°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。検出プラン西側の埋土中には焼土が集中する部分があり、カマドの位置を推定させる。

##### ST43

調査区西側に位置する。不整形な方形プランを呈し、長辺約3.9m、短辺約3mを測る。長軸方向はN-6°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。

#### ST44

調査区西側に位置する。方形プランを呈し、長辺約5.4m、短辺約4.8mを測る。長軸方向はN-32°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) である。検出プラン西側の埋土中には焼土が集中する部分があり、カマドの位置を推定させる。

#### ② 溝

##### SD71

調査区南端より北進し、東西方向の溝と合流する。SD73・74に切られる。南北溝の幅は約60cm、東西溝の幅は約1.6mを測り、軸方向は南北溝でN-10°-E、東西溝はN-77°-Wである。東西溝は南北溝との合流点から西側では徐々に幅を減じて途切れる。検出面での埋土は灰褐色粘質土 (7.5YR4/1) である。第11次調査のSD21に繋がる。

##### SD72

調査区北東端に位置する。SD73に切られる。幅約30cmを測り、検出部分から推定される軸方向はN-27°-WまたはN-62°-Eである。検出面での埋土は灰褐色粘質土 (7.5YR4/1) である。区画溝の南西角部と思われるが、大半が調査区外のため全体の規模は不明である。

##### SD73

調査区北端に位置する。SD72を切り、SD74に切られる。調査区中央西よりで途切れる。幅約40cmを測り、軸方向はN-82°-Wである。検出面での埋土は灰褐色粘質土 (7.5YR4/1) である。

##### SD74

調査区南端より北進し、北端部で途切れる。SD71・73を切る。幅約60cmを測り、軸方向はN-12°-Eである。検出面での埋土は灰褐色粘質土 (7.5YR4/1) である。第11次調査のSD17に繋がる。

#### ③土抗

##### SK148

調査区北端に位置する。SD71・73に切られる。楕円形プランを呈し、長径2.4m、短径1.7mを測る。長軸方向はN-22°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) である。

##### SK149

調査区北端に位置する。SD74に切られるため全体の規模は不明であるが、楕円形プランを呈し、長径1.9m以上、短径1.6mを測る。長軸方向はN-52°-Wである。検出面での埋土は灰褐色粘質土 (7.5YR4/1) である。

##### SK150

調査区中央に位置する。楕円形プランを呈し、長径2.9m、短径1.9mを測る。長軸方向はN-9°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) である。

##### SK151

調査区中央に位置する。不整形プランを呈し、長辺2.3m、短辺2.5mを測る。検出面での埋土は黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) である。

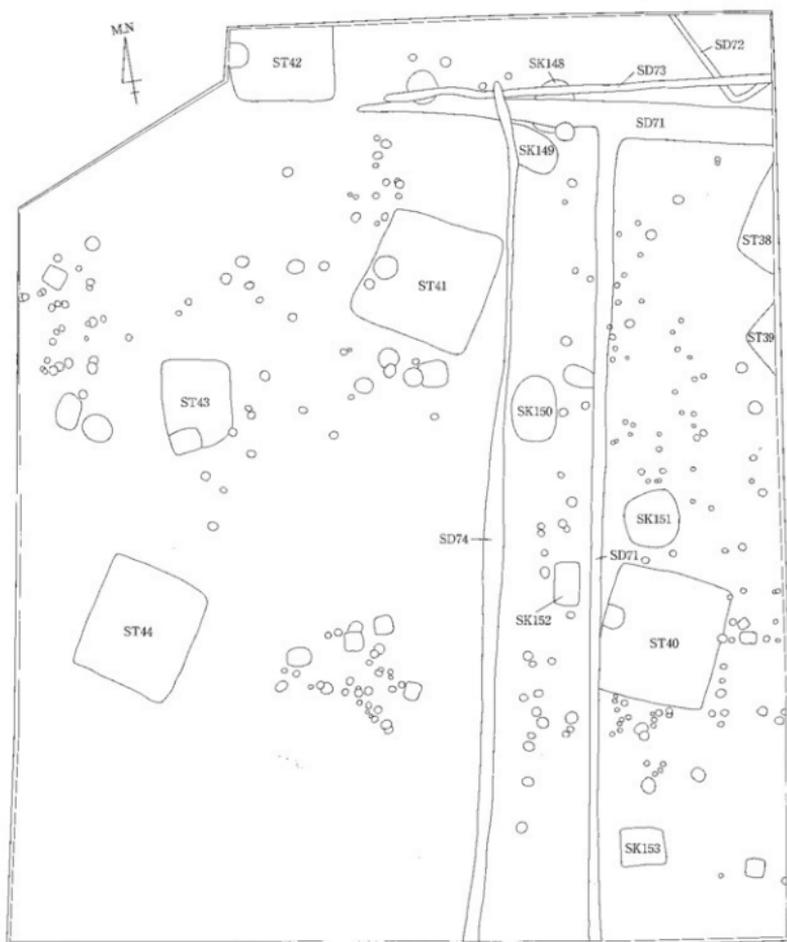


Fig. 5 第28次調査区検出遺構全体図

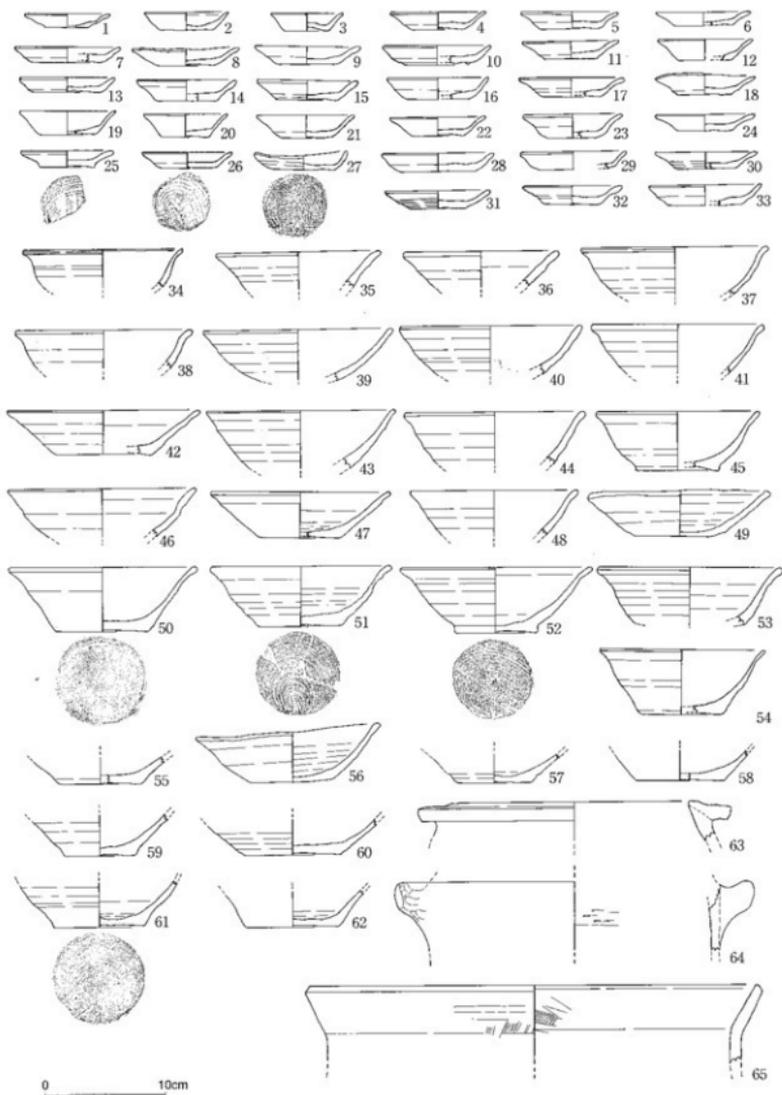


Fig. 6 第28次調査区出土遺物実測図(1)

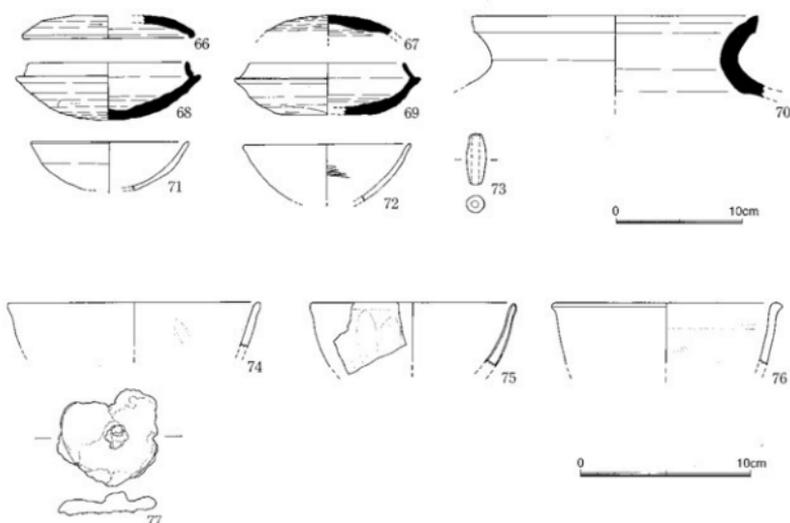


Fig. 7 第28次調査区出土遺物実測図(2)

#### SK152

調査区中央に位置する。方形プランを呈し、長辺1.9m、短辺1.1mを測る。長軸方向はN-11°-Eである。検出面での埋土は黒褐色粘質土(7.5YR3/1)である。

#### SK153

調査区南東に位置する。方形プランを呈し、長辺1.9m、短辺1.7mを測る。長軸方向はN-83°-Wである。検出面での埋土は黒褐色粘質土(7.5YR3/1)である。

#### ④ピット

調査区南西部は密度が薄く、主に南東～北西側にかけて検出した。特にSD71に囲まれた部分の密度が高い。円形プランで直径20～30cmを測り、埋土は灰褐色粘質土(7.5YR4/2)のものが大半を占める。建物プランは明確に確認できなかった。

#### (3) 出土遺物 (Fig.6・7)

すべて包含層からの出土である。図示し得たのは、土師器の小皿(1～33)・杯(34～62)・碗(45・52)・羽釜(63)・甌(64)・長胴甕(65)、須恵器の杯蓋(66・67)・杯身(68・69)・甕(70)、和泉形瓦器碗(71・72)、青磁碗(74・75)、白磁碗(76)、土鏝(73)、鉄製品(77)である。

土師器小皿は全てロクロ成形、回転ナデ調整、底部に回転糸切り痕を残す。土師器碗(45・52)は円盤状高台で底部外面に回転糸切り痕が残る。羽釜(63)は口縁直下に鐙が付く摂津型である。

須恵器の杯蓋(66)は口縁部の一部が残存する。天井部は平らに近いものとみられ、口縁端部は

下方に小さく屈曲する。(67)は丸みを持った天井部約1/2が残存する。杯身の(68)は丸みのある底部に回転ヘラ削りが施され、口縁部は内湾気味に立ち上がり、上方に屈曲する。全て6世紀末である。

青磁碗(74)は内面に割花文が施される。75は外面に蓮弁文が施される龍泉窯系青磁である。白磁(76)はV類の碗である。鉄製品(77)は腐食が著しく特定しがたいが、薄い円盤状で中央に丸みのある突起を持つ。馬具又は紡錘車と考えられる。

## 2. 第29次調査(国庁地区)

### (1) 概要 (Fig.8)

第29次調査は平成14年10月1日～平成14年12月6日まで行った。調査地は南国市比江字国庁606番地で、土佐国府跡推定域の南東部にあたる。調査区は昭和54年度に行われた第6次調査区の北東側にあたり、標高は16.5m前後を測る。調査対象面積は1,278㎡である。

調査区の表土を除去すると、包含層は存在せず礫混じりの層となった。精査を行ったが遺構を検出することができなかった。そこで下層確認のために5ヶ所の試掘坑(TP)を設定したが、いずれのTPにおいても厚い河川礫の堆積層であった。また、遺物の出土も皆無であった。

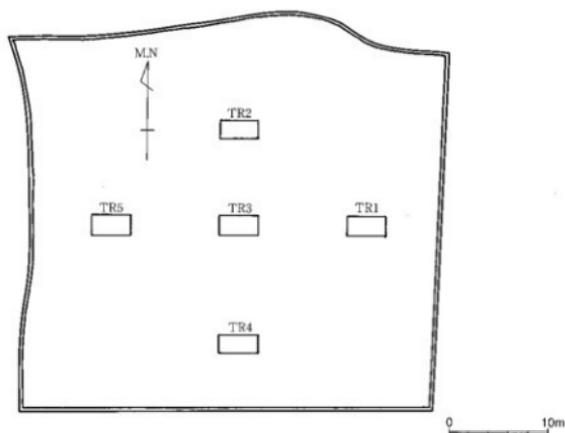


Fig.8 第29次調査区トレンチ位置図

### 3. 第30次調査（中屋敷地区）

#### （1）概要

第30次調査は平成15年1月15日～平成15年1月28日まで行った。調査地は南国市比良字中屋敷301-1番地他で、土佐国府跡推定地の北部にあたる。調査区は平成11年度に行われた第26次調査区の北側に位置し、標高は20.2m前後を測る。調査面積は312㎡である。国衙推定地の北部を東西に走る県道256号久礼田笠ノ川線以北はこれまで調査されたことがない地点であり、新たな発見が期待された。

基本層序は調査区南壁で観察した。すべて安定した堆積状況で、I層は耕作土で層厚20cm前後を測る。II層は褐灰色粘質土（7.5YR4/1）で層厚40cm前後を測る。III層は灰褐色粘質土（7.5YR4/2）で層厚70cm前後を測る。IV層は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）で層厚1m前後を測る。V層はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）である。遺構検出面はIV層上面である。

検出できた主な遺構は、土抗9基とピット66個である。土抗は内側にハンダが貼り付けられており、大半が近世の水溜め遺構と思われる。

#### （2）検出遺構（Fig.9）

##### ①土抗

SK154

調査区西側に位置する。南側をSK155に切られるため正確な規模は不明であるが、方形プランを呈し、長辺2.7m以上、短辺約1.7mを測る。検出面での埋土はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）である。堀方にハンダが施される。

SK155

調査区西側に位置し、SK154を切る。円形プランを呈し、直径約1.8mを測る。検出面での埋土はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）である。堀方にハンダが施される。

SK156

調査区西側に位置する。楕円形プランを呈し、長径1.5m、短径約1.1mを測る。検出面での埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）である。堀方にハンダが施される。

SK157

調査区南西側に位置する。東側をSK158に切られるため正確な規模は不明である。東西方向の長方形プランを呈し、長辺2.5m以上、短辺約1.2mを測る。検出面での埋土は灰褐色粘質土（7.5YR4/2）である。染付碗（79）が出土した。

SK158

調査区南西側に位置する。SK157を切る。南北方向の長方形プランを呈し、長辺約2.4m、短辺約1.2mを測る。検出面での埋土は灰褐色粘質土（7.5YR4/2）である。染付碗（80）が出土した。

SK159

調査区南端に位置する。楕円形プランを呈し、長径約2.2m、短径約1.8mを測る。検出面での埋土はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）である。堀方にハンダが施される。

### SK160

調査区南側に位置する。円形プランを呈し、直径約1.4mを測る。検出面での埋土はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）である。堀方にハンダが施される。西側から20cm前後の円礫が投げ込まれており、染付椀（79）と陶器鉢（81）が出土した。

### SK161

調査区南端に位置する。南側をSK160に切られるため、正確なプラン、規模ともに不明であるが、円形又は楕円形プランを呈すると思われ、残存部分では直径約1.3mを測る。検出面での埋土は灰褐色粘質土（7.5YR4/2）である。堀方にハンダが施される。

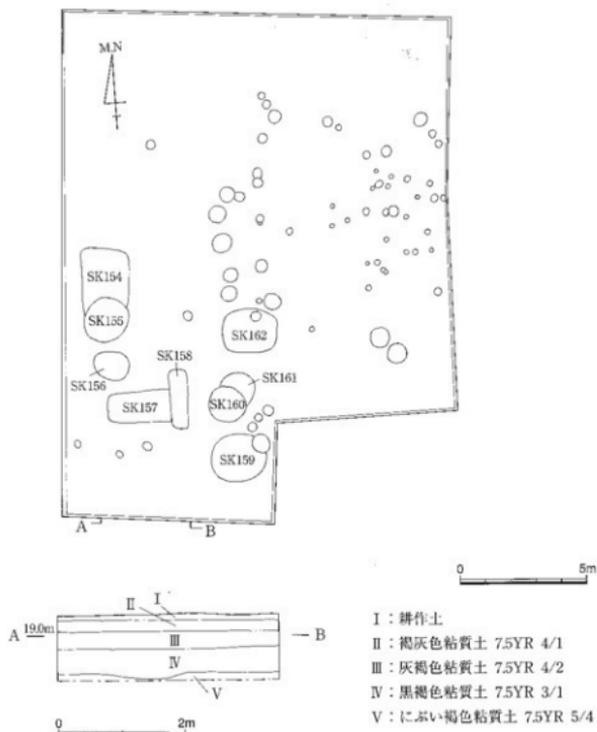


Fig. 9 第30次調査区検出遺構全体図及びセクション図

SK162

調査区中央に位置する。楕円形プランを呈し、長径約2.2m、短径約1.8mを測る。検出面での埋土は黒褐色粘質土(7.5YR3/1)である。掘方にハンダが施される。

②ピット

調査区東側の密度が濃いのが、建物プランとして確認できるものはなかった。

(3) 出土遺物 (Fig.10)

遺構からの出土は染付椀(78~80)と陶器鉢(81)で、全て近世以降のものである。他はすべて包含層からの出土で、土師器の小皿(82~94)・杯(95)、瓦質土器の羽釜(96)などが出土し、復元可能なものについて図示した。土師器小皿は全て口縁の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。

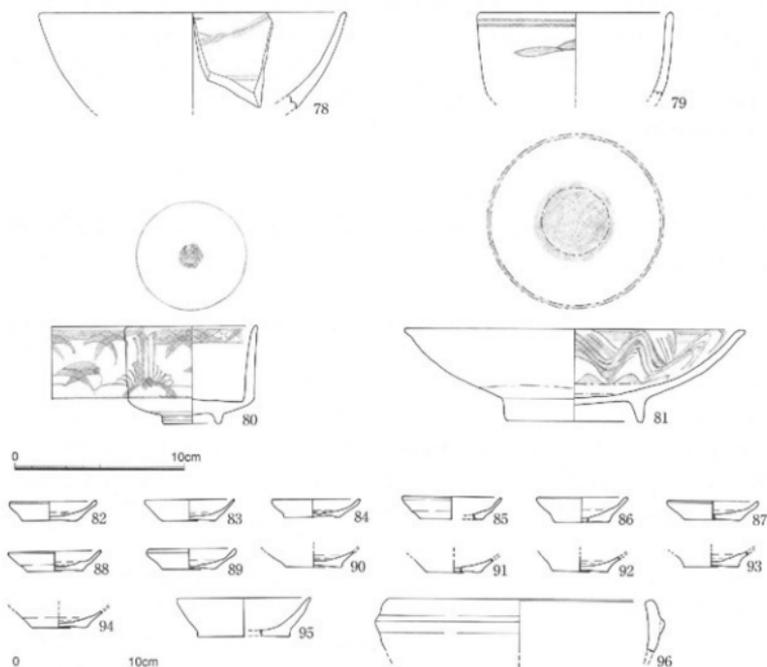


Fig.10 第30次調査区出土遺物実測図

#### 4. 第31次調査（神ノ木戸地区）

##### (1) 概要

第31次調査は平成15年11月26日～平成15年12月25日まで行った。調査地は南国市比江字神ノ木戸579番地で、土佐国府跡推定域の南東部にあたる。調査区は平成元年度に行われた第24次調査区の東側に位置し、標高は16.6m前後を測る。調査面積は1,600㎡である。

基本層序は調査区北壁で観察した。すべて安定した堆積状態で、Ⅰ層は耕作土で層厚20cm前後を測る。Ⅱ層は灰褐色粘質土（7.5YR4/2）で層厚20cm前後を測る。Ⅲ層は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）で層厚40cm前後を測る。Ⅳ層はにぶい褐色粘質土（7.5YR5/4）。Ⅴ層はにぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）で円礫を多く含む。Ⅳ層、Ⅴ層がいわゆる地山である。

表土を除去すると、大半の部分で現代の攪乱を受けており、検出できた主な遺構は、土抗2基と溝1条、ピット160個である。遺構検出面は基本的にⅣ・Ⅴ層上面であるが、調査区北端から南東角方向に約15mの幅でⅢ層の黒褐色土が带状に残り、調査区の中央は溝状に低い旧地形である。検出できた遺構のほとんどは中世以降のものと思われるが、下層確認のために調査区北端に設置したサブトレンチ断面に古代のものと思われる柱穴を確認することができた。調査区内では同様の遺構は検出できなかったため、柱穴は調査区北側に続くと思われる。

##### (2) 検出遺構（Fig.11）

###### ①土抗

SK163

調査区中央に位置する。不整円形プランを呈し、直径約2.4mを測る。検出面での埋土は灰褐色粘質土（7.5YR2/4）である。

SK164

調査区北西に位置する。不整形プランを呈し、長径1.9m、短径約0.9mを測る。検出面での埋土は褐灰色粘質土（7.5YR1/4）である。

###### ②溝

SD75

調査区北東端に位置する。現代の攪乱に破壊され、残存しているのは北端部の約10mである。幅約1mを測り、ほぼ真北に延びる。検出面での埋土は褐灰色粘質土（7.5YR1/4）である。須恵器の壺の口縁部片（98）と底部片（101）が出土した。

###### ③ピット

調査区中央から東側、特に中央部に集中して検出した。西側は削平を受け遺構が残っていない可能性がある。埋土はほとんどが灰褐色粘質土（7.5YR2/4）である。灰褐色埋土のものは直径約20～30cmと小さいが、黒褐色埋土のものは直径約50～80cmと大型である。調査区南側には大型のピットが並ぶため、構列の可能性もある。P1から土師器皿（99）、P3から須恵器壺の口縁部片（100）が出土した。

また、調査区北トレンチで断面を確認したピットは埋土と規模から古代のものの可能性がある。方形プランを呈し、一辺約80cm、検出面からの掘り込みが70cm以上を測る。

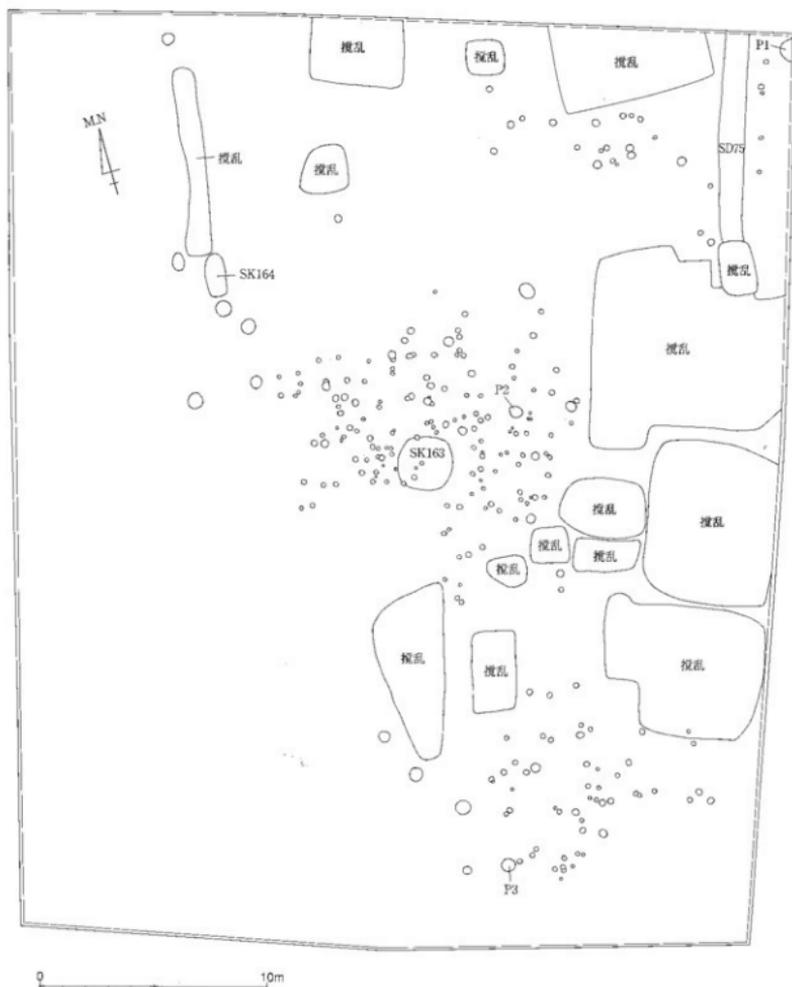


Fig.11 第31次調査区検出遺構全体図

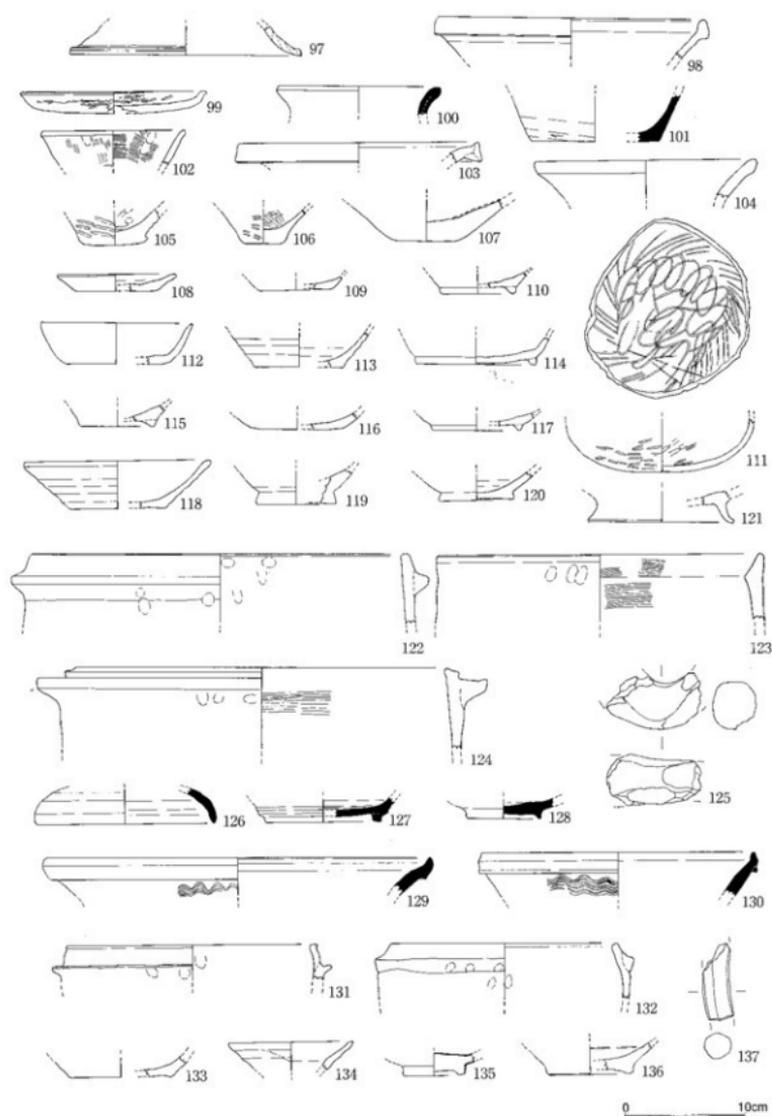


Fig.12 第31次調査区出土遺物実測図

### (3) 出土遺物 (Fig.12)

遺構からの出土はP1の土師器皿(99)、P3の須恵器甕(100)、SD75の東播系須恵器の片口鉢(98)と須恵器壺(101)で、その他は包含層出土である。土師器の小皿(108~110)・皿(111)・杯(112~120)・脚付杯(121)・高杯(97)・甕(123)・羽釜(122・124)・把手(125)、須恵器壺(129・130)、弥生土器(102~107)、瓦質土器の足付羽釜の口縁部(131・132)と脚(137)、緑釉陶器(133)、唐津段皿(134)、青磁(135)、白磁(136)などが出土した。

弥生土器の底部(105・106)はタタキ目を残す弥生時代後期のヒビノキⅡ式土器である。土師器皿(111)は口縁部を欠くが、丸みを持った底部内面には放射状に暗文が施される。土師器杯(120)は摩耗が著しく釉が残っていないが、きめ細かい胎土と高台が残ることから緑釉陶器の可能性もある。羽釜(122・124)は口縁部直下に鈎が付く椀型の羽釜である。緑釉陶器(133)は摩耗著しいが内外面に濃い緑色の釉が残る。

Tab.2 第28次～第31次調査区 遺構一覧表

#### 竪穴住居跡

調査区	遺構名	形状	規模(m)	主軸方向	埴土	切り合い	時期	備考
第28次	ST38	方形	(4.0)×(2.0)	N-35°-E	黒褐色		古墳	大半が調査区外
第28次	ST39	方形	(2.1)×(2.1)	-	黒褐色		古墳	大半が調査区外
第28次	ST40	方形	5.8 × 5.1	N-20°-E	黒褐色	SD71に切られる	古墳	
第28次	ST41	方形	5.4 × 5.4	N-29°-E	黒褐色		古墳	
第28次	ST42	方形	(3.3)×4.4	N-06°-E	黒褐色		古墳	北翼が調査区外
第28次	ST43	方形	3.9 × 3.0	N-06°-E	黒褐色		古墳	
第28次	ST44	方形	5.4 × 4.8	N-32°-E	黒褐色		古墳	

#### 溝跡

調査区	遺構名	規模(m)	主軸方向	埴土	切り合い	時期	備考
第28次	SD71	0.6~1.6	N-10°-E N-77°-W	灰褐色	SD73・74に切られる	中世	区画溝
第28次	SD72	0.3	N-27°-W	灰褐色	SD73に切られる	中世	区画溝
第28次	SD73	0.4	N-69°-W	灰褐色	SD72を切る	中世	
第28次	SD74	0.6	N-12°-E	灰褐色	SD71・73を切る	中世	
第30次	SD75	1.0	N-0°	褐色		近世	

#### 土坑

調査区	遺構名	形状	規模(m)	主軸方向	埴土	切り合い	時期	備考
第28次	SK148	楕円形	2.4 × 1.7	N-22°-E	黒褐色	SD71・73に切られる		
第28次	SK149	楕円形	(1.9)×1.6	N-52°-W	灰褐色	SD74に切られる		
第28次	SK150	楕円形	2.9 × 1.9	N-09°-E	黒褐色			
第28次	SK151	不整形	2.5 × 2.3	-	黒褐色			
第28次	SK152	方形	1.9 × 1.1	N-11°-E	黒褐色			
第28次	SK153	方形	1.9 × 1.7	N-83°-W	黒褐色			
第30次	SK154	方形	(2.7)×1.7	-	にぶい褐色	SK153に切られる	近世	ハンダ土坑
第30次	SK155	円形	1.8 × 1.8	-	にぶい褐色	SK156を切る	近世	ハンダ土坑
第30次	SK156	楕円形	1.5 × 1.1	-	黒褐色		近世	ハンダ土坑
第30次	SK157	長方形	(2.5)×1.2	-	灰褐色	SK158に切られる	近世	遺跡?
第30次	SK158	長方形	2.4 × 1.2	-	灰褐色	SK157を切る	近世	遺跡?
第30次	SK159	楕円形	2.2 × 1.8	-	にぶい褐色		近世	ハンダ土坑
第30次	SK160	円形	1.4 × 1.4	-	にぶい褐色		近世	ハンダ土坑・礫投込み
第30次	SK161	(楕円形)	(0.8)×1.3	-	灰褐色	SK160に切られる	近世	ハンダ土坑
第30次	SK162	楕円形	2.2 × 1.8	-	黒褐色		近世	ハンダ土坑
第31次	SK163	不整形	2.4 × 2.4	-	灰褐色		中世	
第31次	SK164	不整形	1.9 × 0.9	-	褐色		近世	遺跡?

## 第Ⅳ章 総括

### 1. 遺構

今回の調査では国庁に關係する遺構は検出できなかつたが、古墳時代の竪穴住居跡を第28次調査区で7棟(ST38~44)検出した。検出した竪穴住居跡は、その一部またはほとんどが調査区外であるため全体の規模が明確でないものもあるが、すべて方形プランである。個々の住居跡についての詳細な時期は検出に止めているため明確にできないが、これまでの土佐国衙跡の調査事例から古墳時代後期の住居跡と捉えてよいと思われる。ST40・41・42では西側壁際の埋土に焼土が集中しているため、この部分にカマドの存在も推測される。これらの住居跡は長軸方向と規模から2つのグループに分けることができる。一つは長軸方向が北から20~35°東寄りのST38・40・41・44、いまひとつは長軸方向が北から6°西寄りのST42・43である。規模では前者が一辺5mを越えるのに対して、後者は若干規模が小さく4.5m以下である。

これまで土佐国衙跡で検出された竪穴住居跡は44棟となるが、中世の竪穴状遺構のST13と弥生時代後期の住居跡であるST25以外の42棟は古墳時代後期である。これらの住居跡は長軸方向が、a) ほぼ北方向、b) 北から東に20~40°傾く、c) 北から西に20~40°傾く、d) ほぼ東西方向の4グループに分けることができる。プランが正方形のものについては北からの振り幅が少ない方に入れてある。今次調査の竪穴住居跡はa)とb)に属する。ほとんどの住居跡が6世紀末~7世紀初頭と捉えられるが、第8次調査の7世紀後半とされるST1・2・3はすべてd)グループである。

次にカマドが検出されている住居跡は13棟で、床面や壁際で焼土とくぼみ状の浅い掘り込みが検出され、袖石や伏せた状態の土器などが出土している。カマドの位置は北壁際4棟、西壁際4棟、東壁際2棟、床面中央北西寄り1棟、床面中央南東寄り1棟である。同じ調査区内のカマドの位置はほぼ同じであるが、第12次調査区のST9・10・11はそれぞれ位置が違う。ST11は規模が小さいので工房などが考えられるが、ST9・10は切り合い関係にあり、カマドが西にあるST10が東にあるST9を切っている。7世紀後半のST1・2がともに北壁にカマドを持つため、カマドの位置にも時期的な差を見出すことができるとすれば、西→東→北と移り変わることになるが、多くの事例を検討する必要がある。

今回はあくまでこれまでの竪穴住居跡のデータを概観したに過ぎないため、今後より詳細な時期区分と多くの調査事例の検討を行うことで、古墳時代後期の集落の変遷を知る資料となろう。

### 2. 遺物

出土遺物については遺構検出に止めた調査方法であるため、ほとんどの遺物が包含層出土である。第28次調査区の包含層出土遺物は6世紀後半の須恵器や13世紀代の和泉形瓦器椀、14世紀代の龍泉窯系青磁なども含まれるが主体は土師器の小皿と杯であり、おおむね10世紀末から11世紀代の遺物である。また、第31次調査区の包含層出土遺物についても弥生時代から中世までの遺物が含まれるが同様に10世紀末から11世紀末の土師器が主体の包含層である。

Tab. 3 土佐国府跡 竪穴住居跡一覧表

報告書	調査次数	地区名	遺構名	形状	規模	主軸方向	時期	備考
第2集	第8次	内裏	ST01	長方形	4.6 × 2.6	N-W82°	7世紀後半	床面焼土(カマド北壁)、貯蔵穴付属
第2集	第8次	内裏	ST02	方形	(2.8) × 3.2	(N-W95°)	7世紀後半	床面焼土(カマド北壁)、貯蔵穴付属
第2集	第8次	内裏	ST03	方形	4.9 × (0.7)	(N-W85°)	7世紀後半	
第3集	第9次	府中	ST04	方形	(5.4) × (3.1)	(N-E62°)	6世紀末~7世紀初頭	床面焼土・伏せた妻(カマド北壁)
第3集	第9次	府中	ST05	方形	4.0 × 4.0	N-W13°	6世紀末~7世紀初頭	
第4集	第10次	内日吉	ST06	方形	2.5 × 2.3	N-E18°	6世紀末~7世紀初頭	工房?
第4集	第10次	越三ツツ	ST07	長方形	3.9 × 2.2	N-E32°	6世紀末~7世紀初頭	工房?
第5集	第12次	堂ヶ内	ST08	正方形	6.0 × 6.0	N-E36°	古墳後期	床面焼土(中央北西寄り)
第5集	第12次	堂ヶ内	ST09	(正方形)	6.0 × 6.0	N-E44°	古墳後期	床面焼土(カマド東壁)・ST10に切られる
第5集	第12次	堂ヶ内	ST10	長方形	6.0 × 5.1	N-W39°?	古墳後期	床面焼土(カマド西壁)・ST9を切る
第5集	第12次	堂ヶ内	ST11	長方形	(3.7) × 3.3	N-W68°	古墳後期	床面焼土(カマド北壁)・工房?
第5集	第12次	堂ヶ内	ST12	方形	4.7 × -	N-E04°	古墳後期	ほとんど調査区外
第6集	第14次	一ノ坪	ST13	長方形	6.0 × 4.5	N-W45°	中世	竪穴伏遺構
第6集	第14次	一ノ坪	ST14	長方形	5.0 × 4.0	N-W40°	古墳	
第6集	第16次	松ノ下	ST15	長方形	4.5 × 3.1	N-W41°	古墳	カマド
第6集	第16次	松ノ下	ST16	不整形方形	(3.2) × (1.7)	-	古墳	築石
第6集	第16次	松ノ下	ST17	不整形方形	(2.8) × (0.7)	-	-	-
第7集	第17次	松ノ下	ST18	(方形)	(3.4) × -	-	-	-
第8集	第20次	松ノ下	ST19	不整形方形	3.2 × 3.6	N-E62°	-	-
第8集	第20次	松ノ下	ST20	不整形方形	3.5 × (3.8)	N-E21°	-	-
第8集	第20次	松ノ下	ST21	不整形方形	4.1 × (3.6)	N-E28°	-	-
第8集	第21次	金星	ST22	方形	(1.9) × (1.5)	N-W03°	6世紀後半~7世紀前半	
第8集	第21次	金星	ST23	方形	3.2 × (0.7)	N-W84°	6世紀後半~7世紀前半	
第8集	第21次	金星	ST24	方形	6.2 × (1.5)	N-E02°	6世紀後半~7世紀前半	
第9集	第22次	金星	ST25	円形	直径×5.1	-	弥生時代終末	ヒビノキⅡ式土器
第9集	第22次	金星	ST26	方形	4.4 × 4.3	N-W78°	古墳時代	
第9集	第22次	金星	ST27	長方形	5.0 × 4.4	N-W38°	古墳時代	
第10集	第23次	金星	ST28	方形	6.5 × 6.4	N-W36°	6世紀末~7世紀前半	最大規模
第10集	第23次	金星	ST29	方形	(2.9) × (1.8)	N-W83°	古墳時代	
第10集	第23次	金星	ST30	長方形	5.8 × 3.0	N-E85°	古墳時代	
第12集	第26次	内裏	ST31	正方形	5.4 × 5.3	N-E60°	6世紀末~7世紀前半	
第12集	第26次	内裏	ST32	方形	5.0 × (5.0)	N-E29°	6世紀末~7世紀前半	
第12集	第26次	内裏	ST33	正方形	4.5 × 4.3	N-E40°	6世紀末~7世紀前半	床面方形落土(カマド東壁)
第12集	第26次	内裏	ST34	長方形	5.9 × 4.9	N-E29°	6世紀末~7世紀前半	床面隅円形落土(カマド東壁)
第12集	第26次	内裏	ST35	方形	3.2 × (2.2)	-	6世紀末~7世紀前半	
第12集	第26次	内裏	ST36	長方形	5.9 × 4.9	N-E17°	6世紀末~7世紀前半	
第12集	第26次	内裏	ST37	方形	3.2 × 3.1	-	6世紀末~7世紀前半	
第13集	第28次	神木	ST38	方形	(4.0) × (2.0)	N-E35°	古墳	検出のみ・大半が調査区外
第13集	第28次	神木	ST39	方形	(2.1) × (2.1)	-	古墳	検出のみ・大半が調査区外
第13集	第28次	神木	ST40	方形	5.8 × 5.1	N-E20°	古墳	検出のみ・埋土高壁跡土多い(カマド)
第13集	第28次	神木	ST41	方形	5.4 × 5.4	N-E29°	古墳	検出のみ・埋土高壁跡土多い(カマド)
第13集	第28次	神木	ST42	方形	(3.3) × 4.4	N-E06°	古墳	検出のみ・埋土高壁跡土多い(カマド)
第13集	第28次	神木	ST43	長方形	3.9 × 3.0	N-E06°	古墳	検出のみ
第13集	第28次	神木	ST44	長方形	5.4 × 4.8	N-E35°	古墳	検出のみ

※規模の( )は一部が調査区外のため、検出部分の測定値。

※主軸方向の表示はデータの並び替えが容易なようにしている。

### 3. まとめ

今回の調査では、土佐国衛に関連する遺構をほとんど検出することができなかった。調査を実施した地区では河川の氾濫や後世の開発による削平を受けている可能性も考慮されるが、第31次調査区の方形プランの大型ピットだけが土佐国衛との関連を感じさせるものであった。

これまでの土佐国衛跡の調査では国庁など国衛中枢施設が存在し得る場所として、「比江地区中央部」と「内裏地区」が想定されてきた。31次にわたる調査で立地的、地名的に有望視されてきた「内裏地区」周辺では政庁につながる遺構を検出することは出来ていない。「比江地区中央部」では第23次調査において、規模の大きな建物が6棟検出され、地鎮祭を行ったと見られる建物跡も検出されている。このような建物跡が確認されているのは「比江地区中央部」のビニールハウスが建ち並ぶ未調査地区に隣接する部分だけである。このことから国庁は「比江地区中央部」の未調査地区であった可能性が強まっている。

また、土佐国衛以外の成果としては、弥生時代及び古墳時代後期の集落の存在が明らかになったことがあげられる。検出された竪穴住居跡は43棟を数え、本県で確認されているなかでは最大級の古墳時代の集落である。今後、古墳時代の集落の変遷とともに、ただ1棟検出された弥生時代終末期の竪穴住居跡と併せて土佐国衛成立以前の比江地区の様子を考えるうえでの貴重な資料となろう。

今次を持って土佐国衛跡の調査は一旦休止となるが、土佐国衛の所在を明らかにすることは、南国市のみならず高知県にとっても重要な課題である。将来の未調査地区の調査実施に期待したい。

最後に、平成11年度から5年間にわたって土佐国衛跡の調査を担当し、本報告書の作成に携わられたほか、岩村遺跡群、白猪田遺跡、泉ヶ内遺跡の発掘調査においても成果をあげられ、南国市の埋蔵文化財行政に尽力された故三谷民雄氏に本報告書の刊行を報告してご冥福を祈りたい。

#### 参考文献

- 『土佐国衛跡発掘調査報告書 第1～12集』高知県教育委員会・南国市教育委員会 1980～2001年
- 高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡』土佐山田町教育委員会 1990年
- 出原恵三・泉幸代・浜田恵子・藤方正治『小籠遺跡Ⅱ』（財）高知県埋蔵文化財センター 1996年
- 三谷民雄・西村直也『白猪田遺跡』南国市教育委員会 1997年
- 出原恵三・池澤俊幸・小松太陽・行藤たけし『下ノ坪遺跡Ⅰ』野市町教育委員会 1997年
- 出原恵三・池澤俊幸・小松太陽『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年
- 松村信博・山本純代『奥谷南遺跡Ⅱ』（財）高知県埋蔵文化財センター 2000年
- 廣田佳久『比江廃寺跡Ⅲ』（財）高知県埋蔵文化財センター 2007年
- 吉成承三『土佐の古代末から中世前期にかけての土器様相－高知平野を中心に－』

Tab.4 遺物観察表

図版番号	挿入番号	調査区	遺構	器種	器形	法 草 (cm)				特 徴	備 考
						口径	器高	胴径	底径		
6	1	第28次	包含層	土師器	小皿	6.8	1.2		3.7	チャートの細粒砂を少量含む。 内面ナデ調整。外面調整不明。	
6	2	第28次	包含層	土師器	小皿	7.0	1.5		4.6	精選された胎土。内・外面ナデ調整。 口縁部わずかに黒く塗り、外反する。 外底部に糸切り痕あり。	
6	3	第28次	包含層	土師器	小皿	6.0	1.4		3.8	チャート、雲母の細粒砂を少量含む。 内・外面の調整不明。	
6	4	第28次	包含層	土師器	小皿	7.8	1.5		4.4	チャートの粗粒砂を少量含む。 内・外面の器表の黒れが激しい。 外底部に糸切り痕あり。	
6	5	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.4		5.2	チャートの細粒砂を少量含む。 内・外面ナデ調整。 外底部に糸切り痕あり。	
6	6	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.2		5.0	チャートの粗粒砂をわずかに含む。 内・外面調整不明。	
6	7	第28次	包含層	土師器	小皿	8.8	1.3		6.0	チャート、赤色風化層の粗粒砂を少量含む。 内・外面調整不明。	
6	8	第28次	包含層	土師器	小皿	9.0	1.4		4.8	チャートの粗粒砂を少量含む。 内・外面ナデ調整。	
6	9	第28次	包含層	土師器	小皿	7.8	1.5		5.0	精選された胎土。内・外面ナデ調整。	
6	10	第28次	包含層	土師器	小皿	9.0	1.6		6.2	チャートの粗粒砂を少量含む。 内・外面ナデ調整。	
6	11	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.7		4.5	チャートの粗粒砂をわずかに含む。 内・外面ナデ調整。 外底部に糸切り痕あり。	
6	12	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.8		4.6	チャートの粗粒砂をわずかに含む。 内・外面ナデ調整。	
6	13	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.3		5.6	チャート、赤色風化層の粗粒砂を少量含む。 内・外面調整不明。	
6	14	第28次	包含層	土師器	小皿	8.4	1.7		5.0	チャートの粗・細粒砂を少量含む。 内・外面調整不明。	
6	15	第28次	包含層	土師器	小皿	8.4	1.7		5.2	精選された胎土。 内・外面の調整不明。	
6	16	第28次	包含層	土師器	小皿	8.4	1.8		6.0	精選された胎土。内・外面ナデ調整。	
6	17	第28次	包含層	土師器	小皿	8.8	1.6		5.0	チャートの粗粒砂を少量含む。 口縁部焼熱赤変する。 内・外面ナデ調整。	
6	18	第28次	包含層	土師器	小皿	8.3	1.7		4.8	精選された胎土。内・外面の器表の黒れが激しく、調整不明。口縁部焼熱赤変する。	
6	19	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	2.0		4.9	チャート、石英の粗粒砂を少量含む。 内・外面ナデ調整。	
6	20	第28次	包含層	土師器	小皿	7.0	1.9		4.0	精選された胎土。内・外面調整不明。	
6	21	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	1.9		4.5	チャート、石英の粗粒砂をわずかに含む。 内・外面ナデ調整。	
6	22	第28次	包含層	土師器	小皿	7.8	1.6		4.8	チャート、赤色風化層の粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
6	23	第28次	包含層	土師器	小皿	8.0	2.0		4.6	精選された胎土。内・外面調整不明。	
6	24	第28次	包含層	土師器	小皿	8.2	1.3		4.7	チャート、赤色風化層・石英の粗粒砂、小礫を含む。内・外面調整不明。	
6	25	第28次	包含層	土師器	小皿	7.6	1.4		4.6	精選された胎土。内・外面ナデ調整。 外底部糸切り+ヘラこし。	

図版番号	排図番号	調査区	遺構	器種	器形	法量 (cm)				特 徴	備 考
						口径	器高	胴径	底径		
6	第26次	第28次	包含層	土師器	小皿	7.8	1.3		4.8	精選された胎土。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
6	第27次	第28次	包含層	土師器	小皿	7.7	1.6		5.3	チャート、赤色風化礫、雲母の細粒砂を少量含む。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
6	第28次	第28次	包含層	土師器	小皿	9.2	1.5		6.4	精選された胎土。内・外面ナデ調整。	
6	第29次	第28次	包含層	土師器	小皿	8.9	1.5		7.0	チャートの細粒砂を少量含む。内・外面ナデ調整。	
6	第30次	第28次	包含層	土師器	小皿	8.5	1.4		5.0	チャートの細・粗粒砂を少量含む。内・外面ナデ調整。	
6	第31次	第28次	包含層	土師器	小皿	8.6	1.5		4.6	チャートの細・粗粒砂を少量含む。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
6	第32次	第28次	包含層	土師器	小皿	8.4	1.7		4.8	チャート、石英、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。内・外面調整不明。	
6	第33次	第28次	包含層	土師器	小皿	9.8	1.7		6.2	チャート、雲母の細粒砂を少量含む。内・外面調整不明。	
6	第34次	第28次	包含層	土師器	杯	13.3	(3.2)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。口縁部外反する。	
6	第35次	第28次	包含層	土師器	杯	13.4	(3.1)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。口縁部外面焼熱赤変する。	
6	第36次	第28次	包含層	土師器	杯	12.6	(3.0)			チャート、石英の粗粒砂をわずかに含む。内・外面ナデ調整。	
6	第37次	第28次	包含層	土師器	杯	15.4	(4.0)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。口縁部わずかに外反する。	
6	第38次	第28次	包含層	土師器	杯	14.4	(3.3)			焼熱赤変	
6	第39次	第28次	包含層	土師器	杯	15.3	(4.2)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。	
6	第40次	第28次	包含層	土師器	杯	14.7	(4.1)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。	
6	第41次	第28次	包含層	土師器	杯	14.2	(4.2)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。口縁部わずかに外反する。	
6	第42次	第28次	包含層	土師器	杯	16.2	3.7		8.0	チャートの粗粒砂を少量含む。内・外面ナデ調整。	
6	第43次	第28次	包含層	土師器	杯	15.5	(3.0)			チャート、雲母の粗粒砂を少量含む。外面強くナデ、口縁部わずかに外反する。外面焼熱赤変する。	
6	第44次	第28次	包含層	土師器	杯	14.8	(4.4)			精選された胎土。外面強くナデ。口縁部わずかに外反する。	
6	第45次	第28次	包含層	土師器	碗	13.4	5.0		7.0	精選された胎土。外面ナデ。口縁部わずかに外反する。円底状高台。	10C後半～11C初
6	第46次	第28次	包含層	土師器	杯	15.4	(4.1)			精選された胎土。内・外面ナデ調整。口縁部段をもち外反する。	
6	第47次	第28次	包含層	土師器	杯	15.0	3.9		6.8	チャート、石英の粗粒砂を含む。内・外面調整不明。	
6	第48次	第28次	包含層	土師器	杯	13.7	(3.8)			精選された胎土。内・外面調整不明。	
6	第49次	第28次	包含層	土師器	杯	14.6	3.9		7.8	石英の粗粒砂をわずかに含む。内・外面ナデ調整。口縁部焼熱赤変する。	
6	第50次	第28次	包含層	土師器	杯	15.3	5.4		7.9	精選された胎土。内・外面ナデ調整。外底部糸切り痕あり。	

図取 番号	押印 番号	調査区	遺 積	器 種	器 形	法 量 (cm)				特 徴	備 考
						口徑	器高	胴径	底径		
6	51	第28次	包含層	土師器	杯	15.0	5.0		7.2	チャートの細粒砂をわずかに含む。 内・外面ナゲ調整。 外底部に糸切り痕あり。	10C後半～11C初
6	52	第28次	包含層	土師器	碗	16.0	5.5		7.0	精選された粘土。内・外面ナゲ調整。 外底部糸切り痕あり。 口縁部外反する。円盤状高台	10C後半～11C初
6	53	第28次	包含層	土師器	杯	15.2	(4.8)			チャートの小礫を少量含む。 内・外面ナゲ調整。	
6	54	第28次	包含層	土師器	杯	13.8	5.4		6.8	チャートの粗粒砂・小礫を含む。 内・外面の調整不明。	
6	55	第28次	包含層	土師器	杯		(2.3)		7.2	チャート、石英の塵・粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
6	56	第28次	包含層	土師器	杯	15.3	4.3		7.1	精選された粘土。内・外面丁寧なナゲ調整。口縁部被熱赤変する。外底部に糸切り痕あり。	11C後半～12C初
6	57	第28次	包含層	土師器	杯		(2.5)		6.4	チャート、石英、雲母の細粒砂をわずかに含む。内・外面の調整不明。	
6	58	第28次	包含層	土師器	杯		(2.6)		7.3	精選された粘土。 内・外面の調整不明。	
6	59	第28次	包含層	土師器	杯		(3.5)		6.0	チャート、石英の細粒砂をわずかに含む。内・外面の調整不明。	
6	60	第28次	包含層	土師器	杯		(3.0)		8.1	精選された粘土。内・外面ナゲ調整。 外底部に糸切り痕あり。	
6	61	第28次	包含層	土師器	杯		(3.0)		7.8	チャート、石英、赤色酸化鐵の粗粒砂をわずかに含む。内・外面調整不明。	
6	62	第28次	包含層	土師器	杯		(3.8)		7.7	チャートの粗粒砂を少量含む。 内・外面ナゲ調整。 外底部に糸切り痕あり。	
6	63	第28次	包含層	土師器	羽蓋	19.2	(3.3)			チャート、石英、雲母の粗粒砂を多く含む。外面ナゲ調整。	摂津型10C後半
6	64	第28次	包含層	土師器	瓶		(5.8)			チャート、石英の粗粒砂を多く含む。	
6	65	第28次	包含層	土師器	長胴壺	37.3	(6.6)			チャート、石英、雲母の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ナゲ調整。	
7	66	第28次	包含層	須恵器	蓋	13.3	1.8			チャート、石英の細粒砂を含む。	6C後半
7	67	第28次	包含層	須恵器	蓋		(1.6)			チャート、石英の粗粒砂を少量含む。	6C後半
7	68	第28次	包含層	須恵器	杯身	12.6	4.6			チャート、石英の粗・細粒砂を含む。 にぶい赤褐色。	6C後半
7	69	第28次	包含層	須恵器	杯身	12.0	4.1		8.2	精選された粘土。内・外面ナゲ調整。	6C後半
7	70	第28次	包含層	須恵器	壺	22.6	(6.5)			チャートの細・粗粒砂を多く含む。 灰黄褐色。内・外面ナゲ調整。	6C後半
7	71	第28次	包含層	瓦器	碗	12.2	(3.8)			チャートの細粒砂を含む。灰白色。 内・外面ナゲ調整。	和泉型13C
7	72	第28次	包含層	瓦器	碗	13.2	(4.6)			精選された粘土。灰白色。 外面ナゲ、内面ミガキ。	和泉型13C
7	73	第28次	包含層	土師	—	全長 4.4	全幅 1.5	孔径 0.4	重量 7g	精選された粘土。浅黄褐色。	
7	74	第28次	包含層	青磁	碗	14.9	(2.7)			精選された灰色の粗粒質の粘土。 内・外面緑灰色の釉種。 内面に梅花文。	
7	75	第28次	包含層	青磁	碗	12.0	(3.6)			灰白色の緊緻な粘土。内・外面淡緑色の釉種。外面に蓮弁紋。	龍泉窯系14C

四角 番号	押出 番号	調査区	遺物	器種	器形	法量 (cm)				特 徴	備 考
						口径	器高	胴径	底径		
7	76	第28次	包含層	白磁	碗	13.2	(3.7)			灰白色の堅緻な胎土。 内・外面灰白色の施釉。	V類12C
7	77	第28次	包含層	鉄製品	—	直径 5.5	全厚 0.6	重量 32g		腐食著しい	紡錘車又は馬具か
9	78	第30次	SK157	染付	椀	18.0	(5.7)			白色堅緻な胎土。 内・外面白色の施釉。内面に草紋。	近世
9	79	第30次	SK160	染付	碗	11.4	(5.0)			灰白色の堅緻な胎土。 内・外面に淡緑色の施釉。 外面に草紋。	近世
9	80	第30次	SK158	染付	碗	7.8	5.8		高台径 3.4	白色堅緻な胎土。 内・外面白色の施釉。外面に草花紋。	近世
9	81	第30次	SK160	陶器	鉢	20.1	6.0		高台径 8.0	赤褐色の胎土。黄褐色の施釉。 裏合部は露胎する。内面に波状紋。	近世
9	82	第30次	包含層	土師器	小皿	6.8	1.6		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	83	第30次	包含層	土師器	小皿	7.0	1.7		4.2	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	84	第30次	包含層	土師器	小皿	7.0	1.4		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。 外底部に糸切り痕あり。	灯明皿の可能性あり
9	85	第30次	包含層	土師器	小皿	7.7	1.7		5.0	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	86	第30次	包含層	土師器	小皿	7.0	2.0		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	87	第30次	包含層	土師器	小皿	7.0	1.5		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	88	第30次	包含層	土師器	小皿	7.2	1.6		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。 口縁部僅ける。	灯明皿の可能性あり
9	89	第30次	包含層	土師器	小皿	6.7	1.6		4.2	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	90	第30次	包含層	土師器	小皿		(1.3)		4.3	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	91	第30次	包含層	土師器	小皿		(1.1)		4.2	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	92	第30次	包含層	土師器	小皿		(1.2)		4.3	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	93	第30次	包含層	土師器	小皿		(1.2)		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	94	第30次	包含層	土師器	小皿		(1.3)		4.4	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	95	第30次	包含層	土師器	杯	11.5	3.1		7.6	精選された胎土。内外面の調整不明。	
9	96	第30次	包含層	瓦質 土器	羽釜	21.0	(4.2)			チャート、石英の粗粒砂を含む。 灰白色。口縁部に突帯を貼付する。	14C末
11	97	第31次	包含層	土師器	高杯		(2.5)		19.4	精選された胎土。内・外面ナテ調整。	
11	98	第31次	SB75	東播磨 須恵器	片口鉢	12.6	(3.5)			チャートの粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
11	99	第31次	P1	土師器	皿	15.7	1.8			精選された胎土。内・外面ミガキ。	7C後半～8C前半
11	100	第31次	P3	須恵器	葉	13.4	(2.3)			チャートの粗粒砂を含む。外面ナテ。 内面自然釉がかかる。	

図版番号	押出番号	調査区	遺構	器種	器形	法 寸 (cm)				特 徴	備 考
						口徑	器高	胴径	底径		
11	101	第31次	SB75	須恵器	壺		(3.9)		10.6	チャートの粗粒砂を含む。 内・外面ナデ調整。	
11	102	第31次	包含層	弥生土器	壺	11.6	(3.0)			チャート、石英の粗粒砂を含む。 内・外面ナデ調整、指頭圧痕あり。	口縁部片
11	103	第31次	包含層	弥生土器	壺	20.0	(1.8)			チャート、石英、赤色風化礫の粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	口縁部片
11	104	第31次	包含層	弥生土器	壺	18.4	(3.2)			石英、赤色風化礫の粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	口縁部片
11	105	第31次	包含層	弥生土器	壺		(2.9)		5.6	チャート、石英、赤色風化礫の小礫を含む。 外底部に叩きあり。	底部片 弥生後期ヒビノキⅡ式
11	106	第31次	包含層	弥生土器	壺		(2.9)		3.8	チャート、赤色風化礫の小礫を含む。 外面叩き。内面粗いハケ。	底部片 弥生後期ヒビノキⅡ式
11	107	第31次	包含層	弥生土器	壺		(3.5)		6.0	チャート、石英の小礫を含む。 内・外面調整不明。	底部片
11	108	第31次	包含層	土師器	小皿	9.8	1.4		7.0	チャートの粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
11	109	第31次	包含層	土師器	小皿		(1.0)		6.0	チャートの粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
11	110	第31次	包含層	土師器	小皿		(1.7)		6.0	精選された胎土。 内・外面の調整不明。輪高台。	
11	111	第31次	包含層	土師器	皿		(4.5)			精選された胎土。 内外面にミガキ、内面に暗紋あり。	7C後半～8C前半
11	112	第31次	包含層	土師器	杯	12.6	3.4		8.0	チャートの粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
11	113	第31次	包含層	土師器	杯		(2.9)		7.4	赤色風化礫の粗粒砂を含む。 内・外面調整不明。	
11	114	第31次	包含層	土師器	杯		(2.3)		10.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂、小礫を含む。 内・外面の調整不明。 輪高台。	
11	115	第31次	包含層	土師器	杯		(1.5)		6.2	チャートの小礫を含む。 内・外面の調整不明。	
11	116	第31次	包含層	土師器	杯		(1.0)		7.6	チャートの粗粒砂を含む。 内・外面の調整不明。	
11	117	第31次	包含層	土師器	杯		(1.5)		7.4	精選された胎土。 内・外面の調整不明。輪高台。	
11	118	第31次	包含層	土師器	杯	15.4	4.0		8.0	精選された胎土。外面強いナデ。	
11	119	第31次	包含層	土師器	杯		(2.8)	6.6		精選された胎土。外面ナデ。 外底部に糸切り痕あり。	
11	120	第31次	包含層	土師器	杯		(2.2)		6.4	精選された胎土。 内・外面の調整不明。高台残す。 外底部に糸切り痕あり。	埴輪陶器の可能性あり
11	121	第31次	包含層	土師器	内付杯		(2.6)			精選された胎土。 内・外面の調整不明。	
11	122	第31次	包含層	土師質土器	羽釜	31.2	(5.8)			チャートの粗・粗粒砂を多く含む。 内・外面に指頭圧痕あり。	摂津型10C後半
11	123	第31次	包含層	土師質土器	壺	27.0	(5.5)			チャート、石英の粗粒砂を含む。 内面ナデ。外面に指頭圧痕あり。	
11	124	第31次	包含層	土師質土器	羽釜	30.8	(6.7)			チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。 内面ナデ。外面に指頭圧痕あり。	摂津型10C後半
11	125	第31次	包含層	土師質土器	把手					チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。 内面ナデ。外面に指頭圧痕あり。 小礫を含む。	

医服 番号	挿入 番号	測定区	流 構	器 種	器 形	法 量 (cm)				特 徴	備 考
						口径	器高	胴径	底径		
11	126	第31次	包含層	須恵器	壺	14.8	(3.0)			チャートの粗粒砂をわずかに含む。 内・外面ナデ調整。	7C
11	127	第31次	包含層	須恵器	杯身		(2.0)		高台径 9.6	精選された胎土。内・外面ナデ調整。	8C初
11	128	第31次	包含層	須恵器	杯身		(1.9)		高台径 6.4	精選された胎土。 内・外面の調整不明。	
11	129	第31次	包含層	須恵器	壺	32.2	(3.2)			チャート、石英の粗・細粒砂を含む。 外面に波状紋を掻く。	
11	130	第31次	包含層	須恵器	壺	22.6	(3.7)			チャート、石英の粗粒砂、小礫を含む。 外面に波状紋を掻く。	
11	131	第31次	包含層	瓦質 土器	脚付 羽蓋	19.8	(3.0)			チャートの粗・細粒砂を含む。 内・外面に指頭圧痕あり。	畿内山城型13C
11	132	第31次	包含層	瓦質 土器	脚付 羽蓋	18.8	(4.7)			チャートの粗粒砂を含む。 内・外面ナデ調整、指頭圧痕あり。	13C
11	133	第31次	包含層	緑釉 陶器	皿		(1.7)		8.6	精選された浅黄褐色の胎土。 内・外面に濃い緑色の施釉。	8C末～9C初 国産品
11	134	第31次	包含層	唐津	段皿	10.4	(2.4)			灰白色の堅緻な胎土。 内・外面に淡緑色の施釉。	16C末～17C
11	135	第31次	包含層	青磁	輪		(1.8)		高台径 5.1	灰色の堅緻な胎土。 高台は蛇ノ舌状に露胎する。	
11	136	第31次	包含層	白磁	輪		(2.5)		7.2	灰白色の胎土。内面に白色の施釉。	
11	137	第31次	包含層	瓦質 土器	脚付 羽蓋	全長 (6.2)	全幅 2.2	全厚 2.1		チャートの粗粒砂を含む。	脚部片13C

# 写真図版



第28次調査区調査前全景（北より）



第28次調査区遺構検出状況（北より）



ST40検出状況



ST41検出状況



ST42検出状況



ST44検出状況



第29次調査区調査前全景（南より）



第29次調査区トレンチ1完掘状況



第29次調査区トレンチ2 完掘状況



第29次調査区トレンチ5 完掘状況



第30次調査区調査前全景（南より）



第30次調査区遺構検出状況（北より）



第30次調査区完掘状況（北より）



第31次調査区調査前全景（北より）



第31次調査区遺構検出状況（北より）



第31次調査区北トレンチピット検出状況



105



106



68



69



101



2



3



4



5





27



31



32



83



86



89



43



47



49



50



51



54



56



112



118



52



45



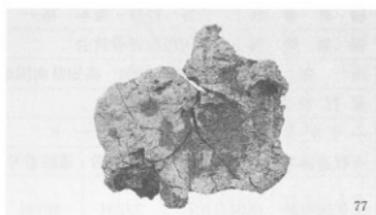
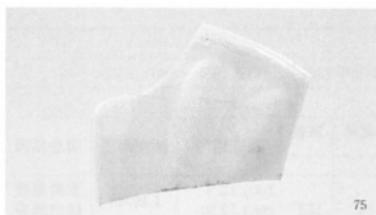
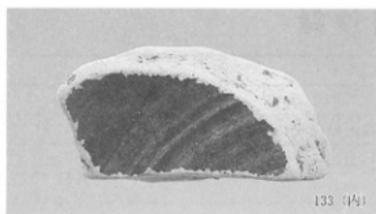
120



99



111



出土遺物 (5)

## 報告書抄録

ふりがな	ときこくがあとほくつちようさほうこくしょ							
書名	土佐国衙跡発掘調査報告書							
副書名	神木・国庁・中屋敷・神ノ木地区の調査							
巻次	13							
シリーズ名	南国市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者名	三谷 民雄・坂本 裕一							
編集機関	南国市教育委員会							
所在地	〒783-0004 高知県南国市大桶甲2301 TEL 088-880-6569							
発行年月日	2008年2月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村番号	遺跡番号	°′″	°′″			
とさこくがあと 土佐国府跡	なんこくしひがし 南国市比江	39204	40141	33° 35′ 52″	133° 30′ 12″	2001.12.4 ~ 2001.12.30 2002.10.1 ~ 2002.12.6 2003.1.15~ 2003.1.28 2003.11.26~ 2003.12.25	1,463㎡  1,278㎡  312㎡  1,600㎡	重要遺跡 確認調査 重要遺跡 確認調査 緊急発掘 重要遺跡 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
土佐国府跡	官衙跡	弥生 古墳 古代	竪穴住居 土抗 溝	弥生土器 瓦器 土師器 須恵器 瓦質土器 緑釉陶器 青磁 白磁		古墳時代の集落跡		
要約	<p>土佐国衙跡の所在する比江地区には、内裏・府中・内日吉・国庁など国府に関係のあるホノギが多く残り、国府城とされている。そのうち約1200㎡が「土佐国衙跡」として昭和38年に県指定の史跡となっている。昭和54年から平成2年まで高知県教育委員会による土佐国衙跡重要遺跡確認調査や南国市教育委員会による緊急発掘調査が25次にわたって実施され、平成12年度からは南国市教育委員会による重要遺跡確認調査が平成15年度まで行われた。これまでの調査では国衙関連の遺構と考えられる掘立柱建物跡が数棟検出されたが、国庁など中枢施設の検出には至っていない。調査成果から未調査である比江地区中央部が国庁である可能性が高くなっている。</p> <p>また、国衙関連以外の遺構として、弥生後期・古墳時代後期・中世の住居跡や区画溝などが検出され、特に古墳時代後期の竪穴住居跡は42棟と県下では最大規模の集落である。</p>							

土佐国衙跡発掘調査報告書

第13集

- 神木・国庁・中屋敷・神ノ木地区の調査 -

(南国市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集)

2008年2月

発行 高知県南国市教育委員会

高知県南国市大浦甲2301

電話 (088) 880-6569

印刷 川北印刷株式会社